

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジン カナザワコウギョウダイガク 学校法人 金沢工業大学							
フリガナ大学の名称		カナザワコウギョウダイガク 金沢工業大学 (Kanazawa Institute of Technology)							
大学本部の位置		石川県野々市市扇が丘7番1号							
大学の目的		金沢工業大学は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める本学園の建学の精神並びに教育基本法及び学校教育法に基づき、工業に関する深い専門的教育を授け、教養と識見の豊かな人材を養成することを目的とするとともに、我が国の工業の発展と地域社会の開発に寄与するものとする。							
新設学部等の目的		情報デザイン学部では、情報技術から社会環境へアプローチするDXやGXを推進し、持続可能な社会や環境のありかたをデザインできる人材を養成する。さらに、工学・技術的、生活者視点でのアプローチから社会・地域・環境などに関する課題に対して、多様な課題を俯瞰的かつ具体的に捉え直して、合意形成に導けるグランドデザインを描き、実行計画を立案して実施できる人材を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	情報デザイン学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	経営情報学科	4	60	-	240	学士（情報）	工学関係	令和7年4月 第1年次	石川県野々市市 扇が丘7番1号
	環境デザイン創成学科	4	40	-	160	学士（情報）	工学関係	令和7年4月 第1年次	同上
	計		100	-	400				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行、名称の変更等）		別紙のとおり							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	経営情報学科	133科目	6科目	5科目	143科目	124単位			
	環境デザイン創成学科	128科目	6科目	6科目	145科目	124単位			
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 （助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計			
新	情報デザイン学部 経営情報学科	7 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	96 (62)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a～b）	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)			
	計（a～d）	7 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	10 (9)			

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 6人

設	情報デザイン学部 環境デザイン創成学科		7 (4)	3 (2)	3 (1)	0 (0)	13 (7)	0 (0)	80 (58)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人		
	a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	2 (2)	1 (1)	2 (0)	0 (0)	5 (3)					
	b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)					
	小計（a～b）		2 (2)	1 (1)	3 (1)	0 (0)	6 (4)					
	c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	5 (2)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (3)					
	計（a～d）		7 (4)	3 (2)	3 (1)	0 (0)	13 (7)					
	計		11 (8)	6 (5)	3 (1)	0 (0)	20 (14)	0 (0)	114 (79)			
	既	メディア情報学部 メディア情報学科		6 (4)	6 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (12)	0 (0)		113 (82)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人
		a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (4)	3 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (7)				
b.		基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	4 (4)					
小計（a～b）		6 (4)	5 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (11)						
c.		基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d.		基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)					
計（a～d）		6 (4)	6 (5)	3 (3)	0 (0)	15 (12)						
メディア情報学部 心理情報デザイン学科		6 (5)	4 (3)	2 (1)	0 (0)	12 (9)	0 (0)	94 (69)				
a.		基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (3)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	8 (6)					
b.		基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)					
小計（a～b）		6 (5)	3 (3)	2 (1)	0 (0)	11 (9)						
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)						
計（a～d）		6 (5)	4 (3)	2 (1)	0 (0)	12 (9)						
情報理工学部 情報工学科		10 (8)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	13 (10)	0 (0)	106 (71)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人			
a.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (5)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	9 (7)						
b.	基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)						
小計（a～b）		7 (6)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	10 (8)						
c.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)						
d.	基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)						
計（a～d）		10 (8)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	13 (10)						

情報理工学部 知能情報システム学科		5 (4)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (11)	0 (0)	111 (76)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 8 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		2 (2)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	10 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		2 (2)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	10 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ 専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する 者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a、b又はcに該当する者を除く）		3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)			
計（a～d）		5 (4)	6 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (11)			
情報理工学部 ロボティクス学科		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	112 (81)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ 専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する 者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a、b又はcに該当する者を除く）		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		11 (11)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (13)			
バイオ・化学部 環境・応用化学科		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	94 (69)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		10 (10)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	11 (11)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ 専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する 者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
バイオ・化学部 生命・応用バイオ学科		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	94 (69)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ 専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する 者であって、年間8単位以上の授業科目を担当する もの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		7 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	9 (9)			

工学部 機械工学科		13 (8)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	15 (9)	0 (0)	115 (79)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 8 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		7 (6)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	8 (7)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		6 (2)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (2)			
計（a～d）		13 (8)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	15 (9)			
工学部 先進機械システム工学科		13 (8)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (9)	0 (0)	105 (68)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (6)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		6 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	7 (6)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		7 (3)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (3)			
計（a～d）		13 (8)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	15 (9)			
工学部 航空宇宙工学科		5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	94 (69)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		5 (5)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	8 (8)			
工学部 電気エネルギーシステム工学科		9 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	13 (10)	0 (0)	110 (75)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (4)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	8 (6)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (4)	2 (2)	1 (0)	0 (0)	8 (6)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		4 (3)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (4)			
計（a～d）		9 (7)	2 (2)	2 (1)	0 (0)	13 (10)			

工学部 電子情報システム工学科		12 (6)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	15 (8)	0 (0)	109 (75)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		8 (3)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	11 (5)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
小計（a～b）		9 (4)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	12 (6)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (2)			
計（a～d）		12 (6)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	15 (8)			
工学部 環境土木工学科		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	94 (69)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
計（a～d）		6 (6)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	10 (10)			
建築学部 建築学科		11 (9)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	13 (10)	0 (0)	125 (78)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (3)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	7 (4)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		5 (3)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	7 (4)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			
計（a～d）		11 (9)	0 (0)	2 (1)	0 (0)	13 (10)			
建築学部 建築デザイン学科		10 (8)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	13 (11)	0 (0)	122 (78)	大学設置基準別 表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 7 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	7 (5)			
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (2)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	7 (5)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)			
計（a～d）		10 (8)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	13 (11)			

分	基礎教育部 修学基礎教育課程	15 (15)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	27 (27)	0 (0)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	15 (15)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	27 (27)		
	小計（a～b）	15 (15)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	27 (27)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	15 (15)	8 (8)	2 (2)	2 (2)	27 (27)		
	基礎教育部 英語教育課程	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	19 (19)		
	小計（a～b）	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	19 (19)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	4 (4)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	19 (19)		
	基礎教育部 数理・データサイエンス・AI教育課程	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	小計（a～b）	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	6 (6)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	9 (9)		
	基礎教育部 プロジェクトデザイン基礎教育課程	2 (2)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	2 (2)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		
	小計（a～b）	2 (2)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	計（a～d）	2 (2)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	10 (10)		
	計	140 (118)	49 (44)	36 (32)	3 (3)	228 (197)	0 (0)	55 (24)
	合 計	151 (126)	55 (49)	39 (33)	3 (3)	248 (211)	0 (0)	55 (24)

職 種			専 属		その他		計			
事 務 職 員			人 205 (205)		人 91 (91)		人 296 (296)			
技 術 職 員			36 (36)		4 (4)		40 (40)			
図 書 館 職 員			12 (12)		10 (10)		22 (22)			
そ の 他 の 職 員			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
指 導 補 助 者			0 (0)		0 (0)		0 (0)			
計			253 (253)		105 (105)		358 (358)			
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
	校 舎 敷 地		81,694.00㎡		439,887.39㎡		11,602.00㎡		533,183.39㎡	
	そ の 他		76,987.00㎡		36,880.12㎡		0㎡		113,867.12㎡	
	合 計		158,681.00㎡		476,767.51㎡		11,602.00㎡		647,050.51㎡	
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計	
			185,385.25㎡ (185,385.25㎡)		19,475.45㎡ (19,475.45㎡)		10,509.63㎡ (10,509.63㎡)		215,370.33㎡ (215,370.33㎡)	
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		403室		教 員 研 究 室		306室	
									大学全体	
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		機械・器具		標本	
			冊	電子図書 〔うち外国書〕	種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	点	点		
	情報デザイン学部		586,068 [133,307] (586,068 [133,307])	24,513[1,524] (24,513[1,524])	666 [298] (666 [298])	380 [290] (380 [290])	11,953 (11,953)	2 (2)	学部等単位での 特定不能なため 大学全体の数	
	計		586,068 [133,307] (586,068 [133,307])	24,513[1,524] (24,513[1,524])	666 [298] (666 [298])	380 [290] (380 [290])	11,953 (11,953)	2 (2)		
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体	
		4,714㎡		0㎡		11,844.19㎡				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	図書購入費につ いては、電子 ジャーナル、 データベース、 その他の経費を 含む
		教員 1 人当り研究費等		930千円	930千円	930千円	930千円			
		共同研究費等		930千円	930千円	930千円	930千円			
		図 書 購 入 費	13,190千円	13,190千円	13,190千円	13,190千円	13,190千円			
	設 備 購 入 費	13,190千円	13,190千円	13,190千円	13,190千円	13,190千円				
	学生 1 人当り 納付金			第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
				1,515千円	1,315千円	1,315千円	1,315千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立学校等経常費補助金、資産運用収入、寄付金収入、補助金収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大 学 等 の 名 称	金沢工業大学							所 在 地	
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度		
		年	人	年次人	人		倍			
	工学部									
	機械工学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	昭和40年度	石川県野々市市扇が丘7番1号	令和6年より学生募集停止
	航空システム工学科	4	60	-	240	学士（工学）	0.60	平成16年度	同上	
	ロボティクス学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成16年度	同上	令和6年より学生募集停止
	電気電子工学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成30年度	同上	令和6年より学生募集停止
	情報工学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成24年度	同上	令和6年より学生募集停止
	環境土木工学科	4	100	-	400	学士（工学）	0.82	平成30年度	同上	
	情報フロンティア学部									
	メディア情報学科	4	-	-	-	学士（情報学）	-	平成16年度	同上	令和6年より学生募集停止
	経営情報学科	4	-	-	-	学士（情報学）	-	平成16年度	同上	令和6年より学生募集停止
	心理科学科	4	-	-	-	学士（情報学）	-	平成16年度	同上	令和6年より学生募集停止
	建築学部									
	建築学科	4	-	-	-	学士（工学）	-	平成30年度	同上	令和6年より学生募集停止
	バイオ・化学部									
	応用化学科	4	80	-	320	学士（理工学）	0.84	平成20年度	同上	
	応用バイオ学科	4	80	-	320	学士（理工学）	0.83	平成20年度	同上	
	工学研究科博士前期（修士）課程									
	機械工学専攻	2	18	-	36	修士（工学）	4.22	昭和53年度	石川県野々市市扇が丘7番1号	
	環境土木工学専攻	2	10	-	20	修士（工学）	1.20	昭和53年度	同上	
	情報工学専攻	2	18	-	36	修士（工学）	1.08	昭和53年度	同上	
	電気電子工学専攻	2	18	-	36	修士（工学）	3.02	昭和55年度	同上	
	システム設計工学専攻	2	8	-	16	修士（工学）	1.37	平成2年度	同上	
	バイオ・化学専攻	2	18	-	36	修士（理工学）	1.00	平成2年度	同上	
	建築学専攻	2	16	-	32	修士（工学）	1.06	昭和55年度	同上	
	高信頼ものづくり専攻（2年生コース）	2	3	-	6	修士（工学）	2.33	平成19年度	同上	
	高信頼ものづくり専攻（1年生コース）	1	4	-	4	修士（工学）	0.00	平成19年度	同上	
	ビジネスアーキテクト専攻	2	6	-	12	修士（工学）	0.58	昭和57年度	同上	
	心理科学研究科修士課程									
	臨床心理学専攻	2	6	-	12	修士（心理学）	1.00	平成16年度	石川県野々市市扇が丘7番1号	
	イノベーションマネジメント研究科修士課程 イノベーションマネジメント専攻	1	40	-	40	修士（経営管理）又は、修士（知的財産マネジメント）	1.65	平成28年度	東京都港区愛宕1-3-4愛宕東洋ビル	

工学研究科博士後期課程									
機械工学専攻	3	5	-	15	博士（工学）	0.46	昭和55年度	石川県野々市市扇が丘7番1号	
環境土木工学専攻	3	5	-	15	博士（工学）	0.26	昭和55年度	同上	
情報工学専攻	3	5	-	15	博士（工学）	0.20	昭和55年度	同上	
電気電子工学専攻	3	6	-	18	博士（工学）	0.22	昭和57年度	同上	
システム設計工学専攻	3	6	-	18	博士（工学）又は、 博士（学術）	0.11	平成2年度	同上	
バイオ・化学専攻	3	6	-	18	博士（理工学）	0.00	平成2年度	同上	
建築学専攻	3	5	-	15	博士（工学）	0.00	平成15年度	同上	
高信頼ものづくり専攻	3	5	-	15	博士（工学）	0.06	平成20年度	同上	
大 学 等 の 名 称	国際高等専門学校								
学 部 等 の 名 称	修業 年限	入学 定員	編入学 定 員	収容 定員	学位又は 称号	収 容 定 員 充 足 率	開設 年度	所 在 地	
国際理工学科	年	人	年次 人	人	準学士（工学）	0.32	平成30年度	石川県金沢市久安2丁目207番地	令和5年度入 学定員10名 減

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「-」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(情報デザイン学部 経営情報学科)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
基礎 科学 科目	修学基礎A	1前	—	2			○				1					
	修学基礎B	1後	—	2			○				1					
	小計（2科目）	—	—	4	0	0	—	—	—	1	1					
人間 形成 基礎 科目	実践ウェルビーイング	1前・後	—	1			○								2	
	技術者と持続可能社会	2前・後	—	2			○				1				1	
	日本学（日本と日本人）A	2前・後	—	1			○								1	
	日本学（日本と日本人）B	2前・後	—	1			○								1	
	科学技術者倫理	3前・後	—	2			○								1	
	小計（5科目）	—	—	7	0	0	—	—	—		1				6	
	ボ ー ナ ー ス	健康・体力づくり	1前	—	1				○						1	
	生涯スポーツ演習	1後	—	1				○							7	
自 然 科 学 と	小計（2科目）	—	—	2	0	0	—	—	—						7	
	人間と自然	1前	—	0			○								1	
	小計（1科目）	—	—	0	0	0	—	—	—						1	
英語 科目	英語	イングリッシュトピックス1	1前	—	2		○								2	
		イングリッシュトピックス2	1後	—	2		○								1	
		イングリッシュトピックス3	1・2前	—	2		○								1	
		イングリッシュトピックス4	1・2後	—	2		○								1	
		イングリッシュトピックス5	1・2前	—	2		○								1	
		ビジネスコミュニケーション1	1・2後	—	2		○								1	
		ビジネスコミュニケーション2	2前	—	2		○								2	
		アカデミックリーディング1	1・2後	—	2		○								1	
		アカデミックリーディング2	2前	—	2		○								1	
		ライティングベーシックス	1・2後	—	2		○								1	
		アカデミックプレゼンテーション	2前	—	2		○								1	
		STEM イングリッシュ	1・2後	—	2		○								1	
		イングリッシュセミナー	2前	—	2		○								1	
		TOEIC 初級	1後	—	2		○								3	
		TOEIC 中級	1後	—	2		○								1	
		インテンシブイングリッシュ	1後	—	2		○								1	
		小計（16科目）	—	—	0	32	0	—	—						14	
	英 上 級	English Academic Writing1	1前	—	2		○								1	
		English Academic Writing2	1後	—	2		○								1	
		小計（2科目）	—	—	0	4	0	—	—						1	
数 理 基 礎 科 目	情報のための数学Ⅰ	1前	—	2			○								3	
	情報のための数学Ⅱ	1前	—	2			○								3	
	線形代数学	1後	—	2			○								3	
	情報数理解A	1後・2前・後	—		2		○								3	
	データサイエンス物理	1後・2前・後	—		2		○								1	
	アドバンスト数理解A	1後・2前・後	—		2		○								1	
	アドバンスト数理解B	1後・2前・後	—		2		○								1	
	技術者のための統計	1後・2前・後	—		2		○								2	
	AI基礎	1後	—	1			○								1	
	データサイエンス基礎Ⅰ	1後	—	1			○								1	
	データサイエンス基礎Ⅱ	2前	—	1			○								1	
	小計（11科目）	—	—	9	10	0	—	—	—						12	
基 礎 プ ロ ジ エ ク ト 科 目	プロジェクトデザイン入門（実験）	1前	—	2					○			1			1	
	プロジェクトデザインⅠ	1後	—	2				○							5	
	プロジェクトデザインⅡ	2前	—	2				○							1	
	プロジェクトデザイン実践（実験）	2後	—	2					○						2	
	ICT入門	1前	—	1				○							1	
	データサイエンス入門	1前	—	1				○							1	
	小計（6科目）	—	—	10	0	0	—	—	—			1			8	

リベラル アーツ 系科目	文理 横断	日本文学の世界	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		人間と哲学	1後・2・3・4	-		2		○					1			
		法と社会	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		経済と社会	1後・2・3・4	-		2		○					1			
		こころのはたらき	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		グローバル社会（ヨーロッパ）	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		グローバル社会（アジア）	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		芸術へのアプローチ	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		科学技術と社会	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		技術者のためのコミュニケーション	1後・2・3・4	-		2		○							1	
		企業の組織と戦略	1後・2・3・4	-		2		○			1					
		日本国憲法	3・4	-		2		○							1	
		韓国語入門	3前・4前	-		2		○							1	
		国際関係論	2前・3前・4前	-		2		○							1	
		危機管理論	2前・3前・4前	-		2		○							2	
		A I プログラミング入門	1・2・3・4	-		1		○							1	
		A I 応用 I	1・2・3・4	-		1		○							1	
		A I 応用 II	1・2・3・4	-		1		○							1	
		ビジネスデータサイエンス	1・2・3・4	-		1		○			1					
		データサイエンス応用	1・2・3・4	-		1		○							1	
		I o T 基礎	1・2・3・4	-		1		○							1	
		I o T プロトタイピング	1・2・3・4	-		1		○							1	
		I o T プログラミング入門	1・2・3・4	-		1		○							1	
		ドローンプログラミング	1・2・3・4	-		1		○							1	
		I o T 応用	1・2・3・4	-		1		○							1	
		ロボティクス基礎	1・2・3・4	-		1		○							2	
		情報ネットワーク基礎	1・2・3・4	-		1		○							1	
		ネットワークセキュリティ	1・2・3・4	-		1		○							1	
		グローバルPD	1後・2・3・4	-		2		○							3	
		未来学	2前・3前・4前	-		2		○							1	
		コンセプチュアル思考	2前・3前・4前	-		2		○							2	
		感性とデザイン	2前・3前・4前	-		2		○							1	
		サステナブルイノベーション	2後・3後・4後	-		2		○			1					
		科学技術と人・社会	2後・3後・4後	-		2		○							1	
		小計（34科目）	-	-	0	55	0	-			3	2				26
教職に 関する 科目		教育原理	1後	-			2	○							1	
		教師入門セミナー	1後	-			2	○							3	
		教職概論	4前	-			2	○							1	
		教育制度論	3前	-			2	○							1	
		教育心理学	2前	-			2	○							1	
		学習・発達論	2後	-			2	○							2	
		特別支援教育概論	2前	-			1	○							1	
		教育課程論	2後	-			2	○							1	
		道徳教育の理論と実践	2前	-			2	○							2	
		総合的な学習の時間の指導法	3前	-			1	○							1	
		特別活動の指導法	2前	-			2	○							1	
		教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）	3前	-			2	○							1	
		生徒・進路指導論	3後	-			3	○							2	
		教育相談	3前	-			2	○							2	
		教育実習（事前・事後指導）	4通	-			1	○							4	
		教育実習 I	4通	-			2	○							4	
		教職実践演習（中学校及び高等学校）	4後	-			2	○							4	
		工業概論	2前	-			2	○							12	
		職業指導	4前	-			2	○							2	
		工業科教育法	3後	-			4	○							1	
		情報科教育法	3後	-			4	○							1	
		小計（21科目）	-	-	0	0	44	-								23
専門 科目	専門	情報デザイン学キャリアデザイン（経営情報）	1前	○	2			○			1					
		Web デザイン	1前	○	2			○			1					
		経営学入門	1前	○	2			○			1					
		企業会計基礎	1前	○	2			○					1			
		データアナリティクス入門	1前	○	2			○			1					
		I T システム基礎	1後	○	2			○			1				1	
		プログラミング基礎	1後	○	2			○			1					
		経営戦略と組織	1後	○	2			○			1					
		マーケティング基礎	2前	○	2			○			1					
		ビジネス統計学 I	2前	○	2			○			1					
		経営分析とESG	2前	○	2			○					1		1	
		戦略会計入門	2前	○	2			○					1		1	
		イノベーション・デザイン	2前	○	2			○			1				1	

	ロジカルシンキング	2前	○		2		○			1						
	データベースマネジメント	2前	○		2		○			1						
	Webプログラミング	2後	○		2		○			1						
	数理マネジメント	2後	○		2		○			1						
	システムモデリング	2後	○		2		○			1						
	マーケティング戦略	2後	○		2		○			1						
	戦略会計応用	2後	○		2		○				1					
	会計情報とビジネス法規	2後	○		2		○				1					
	ビジネス統計学Ⅱ	2後	-		2		○			1						
	インダストリアルエンジニアリング	3前	○		2		○			1						
	SDGs基礎	3前	○		2		○			1						
	先進プログラミング	3前	○		2		○			1						
	アルゴリズムとデータ構造	3前	○		2		○			1						
	原価管理	3前	○		2		○				1					
	データアナリティクス	3前	○		2		○			1						
	サステナブルファイナンス	3前	-		2		○								1	
	マーケティング実践	3後	○		2		○			1						
	SDGs実践	3後	○		2		○			1						
	データサイエンス実践	3後	○		2		○			1						
	システム思考	3後	○		2		○			1						
	先進プログラミング応用	3後	○		2		○			2						
	グローバルリーダーシップ実践	3後	-		2		○								1	
	企業価値評価とESG	3後	-		2		○								1	
	アカデミックリーディング	3後	-		2		○			1						
	経営情報専門実験・演習A	3前	○	3				○		1		1			1	
	経営情報専門実験・演習B	3後	○	3				○		2					1	
	小計（39科目）	-	-	32	48	0	-			6		1			2	
専門プロジェクト	イノベーション基礎	3前	○	1			○			1						
	専門ゼミ	3後	○	1			○			7	1	1			2	
	プロジェクトデザインⅢ	4通	○	8				○		7	1	1			2	
	小計（3科目）	-	-	10	0	0	-			7	1	1			2	
その他	進路セミナーⅠ	3前	-			1	○			1	1					
	進路セミナーⅡ	3後	-			1	○			1	1					
	小計（2科目）	-	-	0	0	2	-			1						
合計（144科目）		-	-	74	149	46	-			7	2	1			96	
学位又は称号		学士（情報）				学位又は学科の分野				工学関係						
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等						
必修科目74単位（修学基礎科目4単位、人間形成基礎科目9単位、数理基礎科目9単位、基礎プロジェクト科目10単位、専門科目32単位、専門プロジェクト10単位）、数理基礎科目の選択科目から2単位以上、英語科目8単位以上、リベラルアーツ系科目12単位以上、専門科目の選択科目から28単位以上を修得し、124単位以上を修得すること （履修科目の登録の上限：学期24単位、年間48単位）										1学年の学期区分			2学期			
										1学期の授業期間			15週			
										1時限の授業の標準時間			100分			

教 育 課 程 等 の 概 要																
（情報デザイン学部 環境デザイン創成学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹（助手を除く） 教員	
基礎 科学 科目	修学基礎A	1前	－	2			○			1					1	
	修学基礎B	1後	－	2			○			1					1	
	小計（2科目）	－	－	4	0	0	－	－	－	1					1	
人間 形成 基礎 科目	実践ウェルビーイング	1前・後	－	1			○								1	
	技術者と持続可能社会	2前・後	－	2			○								1	
	日本学（日本と日本人）A	2前・後	－	1			○								1	
	日本学（日本と日本人）B	2前・後	－	1			○								1	
	科学技術者倫理	3前・後	－	2			○								1	
	小計（5科目）	－	－	7	0	0	－	－	－						5	
	ボ生 ！ 涯 ツ ス	健康・体力づくり	1前	－	1				○						1	
		生涯スポーツ演習	1後	－	1			○							7	
		小計（2科目）	－	－	2	0	0	－	－						7	
	自 然 関 と	人間と自然	1前	－	0		○								1	
		小計（1科目）	－	－	0	0	0	－	－						1	
英語 科目	英語	イングリッシュトピックス1	1前	－	2		○								1	
		イングリッシュトピックス2	1後	－	2		○								1	
		イングリッシュトピックス3	1・2前	－	2		○								1	
		イングリッシュトピックス4	1・2後	－	2		○								1	
		イングリッシュトピックス5	1・2前	－	2		○								1	
		ビジネスコミュニケーション1	1・2後	－	2		○								1	
		ビジネスコミュニケーション2	2前	－	2		○								1	
		アカデミックリーディング1	1・2後	－	2		○								1	
		アカデミックリーディング2	2前	－	2		○								1	
		ライティングベーシックス	1・2後	－	2		○								1	
		アカデミックプレゼンテーション	2前	－	2		○								1	
		STEM イングリッシュ	1・2後	－	2		○								1	
		イングリッシュセミナー	2前	－	2		○								1	
		TOEIC 初級	1後	－	2		○								3	
		TOEIC 中級	1後	－	2		○								1	
		インテンシブイングリッシュ	1後	－	2		○								1	
		小計（16科目）	－	－	0	32	0	－	－						13	
	英 上 級	English Academic Writing1	1前	－	2		○								1	
		English Academic Writing2	1後	－	2		○								1	
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－	－						1	
数理 基礎 基礎 科目	情報のための数学Ⅰ	1前	－	2			○					1			2	
	情報のための数学Ⅱ	1前	－	2			○					1			2	
	線形代数学	1後	－	2			○					1			3	
	情報数理解A	1後・2前・後	－		2		○					1			1	
	データサイエンス物理	1後・2前・後	－		2		○								1	
	アドバンスト数理解A	1後・2前・後	－		2		○								1	
	アドバンスト数理解B	1後・2前・後	－		2		○								1	
	技術者のための統計	1後・2前・後	－		2		○								2	
	AI基礎	1後	－	1			○								1	
	データサイエンス基礎Ⅰ	1後	－	1			○								1	
	データサイエンス基礎Ⅱ	2前	－	1			○								1	
	小計（11科目）	－	－	9	10	0	－	－	－			1			11	
基礎 プロ ジェ クト 科目	プロジェクトデザイン入門（実験）	1前	－	2					○						1	
	プロジェクトデザインⅠ	1後	－	2				○							3	
	プロジェクトデザインⅡ	2前	－	2				○				1				
	プロジェクトデザイン実践（実験）	2後	－	2					○			1				
	ICT入門	1前	－	1				○							1	
	データサイエンス入門	1前	－	1				○							1	
	小計（6科目）	－	－	10	0	0	－	－	－			1			4	

リベラル アーツ 系科目	文理 横断	日本文学の世界	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		人間と哲学	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		法と社会	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		経済と社会	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		こころのはたらき	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		グローバル社会（ヨーロッパ）	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		グローバル社会（アジア）	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		芸術へのアプローチ	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		科学技術と社会	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		技術者のためのコミュニケーション	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		企業の組織と戦略	1後・2・3・4	-		2		○								1	
		日本国憲法	3・4	-		2		○								1	
		韓国語入門	3前・4前	-		2		○								1	
		国際関係論	2前・3前・4前	-		2		○								1	
		危機管理論	2前・3前・4前	-		2		○								2	
		A I プログラミング入門	1・2・3・4	-		1		○								1	
		A I 応用 I	1・2・3・4	-		1		○								1	
		A I 応用 II	1・2・3・4	-		1		○								1	
		ビジネスデータサイエンス	1・2・3・4	-		1		○			1						
		データサイエンス応用	1・2・3・4	-		1		○								1	
		I o T 基礎	1・2・3・4	-		1		○								1	
		I o T プロトタイピング	1・2・3・4	-		1		○								1	
		I o T プログラミング入門	1・2・3・4	-		1		○								1	
		ドローンプログラミング	1・2・3・4	-		1		○								1	
		I o T 応用	1・2・3・4	-		1		○								1	
		ロボティクス基礎	1・2・3・4	-		1		○								2	
		情報ネットワーク基礎	1・2・3・4	-		1		○								1	
		ネットワークセキュリティ	1・2・3・4	-		1		○								1	
		グローバルPD	1後・2・3・4	-		2		○			1					2	
		未来学	2前・3前・4前	-		2		○								1	
		コンセプチュアル思考	2前・3前・4前	-		2		○								2	
		感性とデザイン	2前・3前・4前	-		2		○				1					
		サステナブルイノベーション	2後・3後・4後	-		2		○			1						
		科学技術と人・社会	2後・3後・4後	-		2		○								1	
		小計（34科目）	-	-	0	55	0	-			3	1				27	
教職に 関する 科目		教育原理	1後	-			2	○								1	
		教師入門セミナー	1後	-			2	○								3	
		教職概論	4前	-			2	○								1	
		教育制度論	3前	-			2	○								1	
		教育心理学	2前	-			2	○								1	
		学習・発達論	2後	-			2	○								2	
		特別支援教育概論	2前	-			1	○								1	
		教育課程論	2後	-			2	○								1	
		道徳教育の理論と実践	2前	-			2	○								2	
		総合的な学習の時間の指導法	3前	-			1	○								1	
		特別活動の指導法	2前	-			2	○								1	
		教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）	3前	-			2	○								1	
		生徒・進路指導論	3後	-			3	○								2	
		教育相談	3前	-			2	○								2	
		教育実習（事前・事後指導）	4通	-			1	○								4	
		教育実習 I	4通	-			2	○								4	
		教職実践演習（中学校及び高等学校）	4後	-			2	○								4	
		情報科教育法	3後	-			4	○								1	
		小計（18科目）	-	-	0	0	36	-								12	
専門 科目	専門	情報デザイン学キャリアデザイン（環境デザイン創成）	1前	○	2			○			1						
		Webデザイン	1前	○	2			○			1	1					
		経営学入門	1前	○	2			○			1						
		データアナリティクス入門	1前	○	2			○			1						
		社会調査法	1後	○	2			○			1						
		グラフィック・コミュニケーション	1後	○	2			○				1					
		グローバル開発論	1後	○	2			○			1						
		コミュニケーション・デザイン入門	1後	○	2			○			1						
		プログラミング基礎	1後	-	2			○			1					1	
		イノベーション・デザイン	2前	○	2			○				1					
		カーボンニュートラル概論	2前	○	2			○			1						
		コミュニケーション・デザイン実践	2前	○	2			○					1				
		経営分析とESG	2前	○	2			○					1				
		ランドスケープ入門	2前	○	2			○			1	1					
		マーケティング基礎	2前	-	2			○								1	
		ウェルビーイングシティ政策デザイン	2後	○	2			○			1						

	3次元コンピュータグラフィックス入門	2後	○		2		○			1							
	共生社会デザイン概論	2後	○		2		○			1							
	異文化理解・コミュニケーション	2後	○		2		○				1						
	思考のトレーニング	2後	○		2		○					1					
	地域・ランドスケープ計画論	2後	○		2		○				1						
	社会シミュレーション	2後	○		2		○			1			1				
	環境・空間調査分析法	2後	-		2		○			1							
	NGO組織デザイン概論	3前	○	2			○			1							
	グローバルリーダーシップ実践	3前	○		2		○				1						
	データアナリティクス	3前	○		2		○			1							
	環境・エネルギーシステム論	3前	○		2		○						1				
	サステナブルファイナンス	3前	○		2		○							1			
	映像メディアと環境応用	3前	○		2		○			1							
	バリアフリー・ユニバーサルデザイン論	3前	○		2		○			1							
	SDGs・GX・SX入門	3前	○		2		○			1							
	環境と倫理	3後	○		2		○						1				
	ヘドニスティック・サステナビリティ実践	3後	○		2		○			1							
	環境アート・デザイン論	3後	-		2		○			1							
	学習理論と環境応用	3後	-		2		○			1							
	環境デザイン創成専門実験・演習A	3前	○	3					○	2	1						
環境デザイン創成専門実験・演習B	3前	○	3					○	2		1						
小計（ 37科目）		-	-	36	40	0	-			6	3	2				2	
専門 プロ ジェ クト	イノベーション基礎	3前	○	1			○			1							
	専門ゼミ	3後	○	1			○			7	3	2					
	プロジェクトデザインⅢ	4通	○	8				○		7	3	2					
	小計（ 3科目）	-	-	10	0	0	-			7	3	2					
そ の 他	進路セミナーⅠ	3前	-			1	○			1							
	進路セミナーⅡ	3後	-			1	○			1							
	小計（ 2科目）	-	-	0	0	2	-			1							
合計（139科目）		-	-	78	141	38	-			7	3	3				80	
学位又は称号		学士（情報）				学位又は学科の分野				工学関係							
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等							
必修科目78単位（修学基礎科目4単位、人間形成基礎科目9単位、数理基礎科目9単位、基礎プロジェクト科目10単位、専門科目36単位、専門プロジェクト10単位）、数理基礎科目の選択科目から2単位以上、英語科目8単位以上、リベラルアーツ系科目12単位以上、専門科目の選択科目から24単位以上を修得し、124単位以上を修得すること （履修科目の登録の上限：学期24単位、年間48単位）										1 学年の学期区分				2学期			
										1 学期の授業期間				15週			
										1 時限の授業の標準時間				100分			

授 業 科 目 の 概 要				
（情報デザイン学部 経営情報学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
修学基礎科目	修学基礎 A	-	本学での学習環境を把握し、学業継続を妨げる生活リスクを理解した上で、よりよい学習と生活のための計画を立てることができる。さらに、その計画のもとで自己管理を行い、学習に意欲的に取り組むことができる。また、共同の重要性も認識し、実践することができる。本学学生に期待される学習と生活に取り組む適切な姿勢を「学修支援システム」などを活用して身につけることができる。本学の様々な授業形態や学習スタイルを理解し、その基礎を身につけることができる。	
	修学基礎 B	-	学習や生活に取り組む態度と方法の重要性をポートフォリオの作成やグループ討議などを通して認識し、積極的かつ継続的に行動することができる。キャリアデザインの重要性を理解し、在学中に身につけるべき能力について考える。自分の「強み」を把握し、自らのキャリアデザインの実現に向けて主体的に行動することができる。「社会」の状況を踏まえたリサーチ・ペーパーの作成などを通じ、論理的な文章を作成する上で必要な知識やスキルの基礎を身につけることができる。	
人間形成基礎科目	実践ウェルビーイング	-	この授業の教育目標は、受講生が自分の人生を前向きにとらえ、意味のある目的を持って生きていくことを促進することである。対人コミュニケーションスキルの訓練を含む多くのポジティブエクササイズが用意されている。受講生はこれらのエクササイズに積極的に取り組むことが期待される。これらのエクササイズは以下を達成するための基本的な要素を提供する。すなわち、受講生が自らのウェルビーイング（幸福感）を意識し、意味のある人生の目標を見出し、多様性の世界で自分を探求していくことである。	
	技術者と持続可能社会	-	社会における会社などの企業で、充実した業務を推進するために必要と思われるSDGsなど、持続可能社会の動向や企業の役割と、そこで働く技術者の責任・やりがいなどを理解する。そして、経営の基本知識と研究開発・生産のプロセスなど技術者の仕事に関連する事柄を学び、社会には多岐にわたる業界があり、広い分野の多様な職種で技術者は活躍していることを理解する。なお、グループ討議・発表を通して、自分で調査した項目の意見交換により、技術者の仕事について理解を深め、発展する社会で活躍するために、イノベーションの事例を学ぶ。	
	日本学（日本と日本人） A	-	日本における歴史上の人物の生涯を学ぶことで、その生き方・考え方を知り、それらを通して日本人の特質・行動規範などについて理解し、今後の自身の問題と照らし合わせて考える。さらに、各種神話や建国伝承を学ぶことで、多様な価値観の存在を知るとともに、日本人の特質を考える。併せて「読む・聞く・考える・書く」といった基礎的能力の向上を図る。	
	日本学（日本と日本人） B	-	日本の歴史・文化・伝統に対する理解を深めつつ、日本および日本人の特質について様々な角度から考える。一方、行動する技術者、ひいては国際性豊かな広い視野をもつ人間となるための前提として、諸外国のもつ多様な文化・価値観にも眼向け、日本と異なる歴史や文化・伝統を公平に評価できる真摯な姿勢の大切さを学ぶ。これらのことを通して、「読む・書く・聞く・話す・考える」といった基礎的能力の向上を図る。	
	科学技術者倫理	-	科学技術がグローバル化の進む今日の社会および環境に与える影響について考察し、科学技術の目的・役割と社会との相互作用についての理解を深める。また、科学技術者が専門職として担う倫理的・社会的責任を検討する。さらに、実務を行う上で直面する倫理的な問題を検討し、それらを解決する問題解決能力の向上を図る。以上の学習を通して、「科学技術者倫理」が単に規範の遵守ではなく、価値のバランスを取りながら「自らがなすべき行動を設計する」という創造的な知的営みであることを学ぶ。	
	健康・体力づくり	-	生涯にわたり健康で豊かな人生を営むために、生活習慣病や健康・体力づくりに関する知識、自己の健康・体力を測定・分析する方法の学習を通して、個人の状況に応じた運動処方（トレーニングプログラム）を作成できるようになる。また、健康・体力の自己管理の重要性を理解し、実践できるようになる。さらに、学生生活に潜む様々なリスクの理解や、これらの学習活動を通じて、協調性やリーダーシップ、規則を守るなどの基本的事柄を体得する。	

		生涯スポーツ演習	-	スポーツの基礎技能習得をねらいとする学習活動を通じて、生涯にわたりスポーツを楽しむこと、スポーツ活動を自主的・主体的に計画・実行（実践）・評価・改善するための知識や能力や社会（学生）生活を営むうえで必要な事柄（ルールと規律を守る心、仲間に対する敬意と思いやりの心、チャレンジ精神、リーダーシップ・フォロワーシップ、責任感、安全に対する意識、コミュニケーション能力など）を身につけることができるようになる。	
	人間と自然	人間と自然	-	グループ活動を通して、協同する大切さを理解し、他者の意見の根拠を考え自己の考えと比較し思考する姿勢を身につけることができる。科学技術者に求められる倫理観について考え続ける大切さを学び、研究施設の見学や、教職員及びクラスメートとの会話を通して、学びの広がりや深まりを理解することができる。	
英語科目	英語	イングリッシュトピックス 1	-	日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 2	-	日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得するとともに定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 3	-	日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 4	-	日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 5	-	社会・科学・文化に関するトピックを用いて、英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の構文及び語彙を学習し、授業内での会話や討論、さらに文章の読み書きに应用できるようにする。また、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。	
		ビジネスコミュニケーション 1	-	ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な 4 技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要なスキルを修得する。	
		ビジネスコミュニケーション 2	-	ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な 4 技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要なスキルを修得する。タスクの内容は「ビジネスコミュニケーション 1」と異なる。	
		アカデミックリーディング 1	-	中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションを取る能力を修得することを目標とする。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。	
		アカデミックリーディング 2	-	中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションをとる能力を修得することを目標とし、さらなる能力の定着を図る。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。	

		ライティングベーシックス	-	基礎的なライティングスキルを身につけることを目標とする。単語の品詞、基礎文法、文章の構成を実践的に学ぶ。ライティングに使用されるメカニックス（スペル、大文字・小文字、句読点、文法等）やフォーマットも修得する。	
		アカデミックプレゼンテーション	-	プレゼンテーションに必要な言語・非言語的スキルを学び、アカデミックな英語を用いたプレゼンテーションスキルを修得することを目指す。図や表を的確に説明する方法を学ぶ。また、効果的な発表原稿の作成方法を修得する。	
		STEMイングリッシュ	-	STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) 分野の英語を使って4技能（読む、書く、話す、聞く）を修得する。STEM分野での課題発見、解決の力を身につけることを目標とする。取り上げた課題について詳しく調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを英語で伝える力を修得する。	
		イングリッシュセミナー	-	地域社会で起こっている様々な問題を発見し、解決する方法を英語で学ぶ。取り上げた課題について詳しく調べ、グループワークやディスカッションを通して、自分の意見や考えを伝える力を修得する。外国人とのインタビューも実施する。	
		TOEIC 初級	-	TOEIC®Listening & Reading 受験のための基礎コースである。基礎的な文法と語彙の演習・課題を通して、テストの概要と構成を理解する。TOEIC®スコア伸長のための各自にあった学習方法を身につける。	
		TOEIC 中級	-	本学でイングリッシュトップピックス5（中級）から英語学習をスタートした学生や、就職・進学に向けてスコアアップを目指す学生を主対象とする応用コースである。各パートの得点をどのように上げるか、という攻略法を学び、演習・課題を実践していく。TOEIC®の得点をさらに上げたい人のための講義で、聞き取り、文法、読解のコツを体系的に学ぶ。	
		インテンシブイングリッシュ	-	海外にある本学の協力協定校において実施される短期集中プログラムである。参加学生は、協定校での講義と、英語圏での日常生活におけるコミュニケーションの実践を通して、英語能力を向上させることを目指す。グローバルに活躍する人材の育成を目的としており、具体的に次の達成目標を掲げている。①授業で学んだ英語を使用し、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。②異分野・異文化背景を持つクラスメイトや現地学生達との関わりを通じて、協調性、リーダーシップ、異文化理解、多様性認識などのグローバルマインドを育む。③意思疎通が不十分であったり言語面および文化面において困難を伴う場合、それを補う方法を修得する。	
	英語・上級	English Academic Writing 1	-	外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集め、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに文章を書く方法を学ぶ。	
		English Academic Writing 2	-	外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。「English Academic Writing 1」を履修した学生を対象に、当該科目の学習範囲から発展した内容を学習する。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集め、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに論文を書く方法を学ぶ。	
数理基礎科目		情報のための数学Ⅰ	-	微分法の考え方を理解し、積・商・合成関数の微分法や逆関数の微分法を修得する。さらに、求積法の概念を理解し、基本的な関数の積分について学ぶ。	
		情報のための数学Ⅱ	-	関数と逆関数について学び、関数の極限について学習する。また、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数の理解を深め、その計算に習熟することを目指す。	
		線形代数学	-	ベクトルの演算や行列の計算、連立1次方程式の解法、1次変換、行列式などの学習を通して、多次元の対象を代数的に扱える能力を養い、専門分野へ応用できる力を養う。	

	情報数理A	-	先ず数列の諸性質や極限の概念を学び、微積分学の準備を行う。次に、微分係数や導関数の概念を理解し、合成関数の微分法を習熟することにより関数の変化を調べることができることを学ぶ。さらに、微分の逆演算としての不定積分および和の極限としての定積分を理解し、置換積分法や部分積分法などの手法を習得するとともに面積計算等の応用にも取り組む。また、表計算ソフトExcelを用いた数理の解析も体験する。	
	データサイエンス物理	-	身の回りの自然現象の理解に物理が使われていることを学び、物理を用いて考えることができる論理的思考力を養成する。また、実際の測定データを解析して解釈し、帰納的に未知の事象を推論する力を養う。ベクトル、微分積分を用いて、運動の記述、質点や剛体の運動方程式、仕事やエネルギーなど、物理学の基礎を学ぶ。また、学んだ知識を応用し、論理的思考とデータ解析を通して、自然現象の背景にある物理を洞察する能力を養成することを目標とする。	
	アドバンスト数理A	-	多変数関数微積分学における偏微分と重積分について学ぶ。偏微分については、第1次、第2次偏導関数を求めることと、合成関数の偏導関数を求めることについて学習する。さらにその応用として、2変数関数の極値問題について学習する。重積分については、累次積分による計算方法を学び、さらに変数変換を用いた効果的な計算法を習得していろいろな重積分が計算できるようにする。	
	アドバンスト数理B	-	1階の常微分方程式、2階の定数係数線形微分方程式および連立微分方程式の解法について学習し、現象の数学モデルを構成する方法、具体的な解法と幾何学的な考え方、解の性質や特徴を分析する方法を理解する。また、技術計算言語MATLABを利用したコンピューティング・プロジェクトを実施し、現実的な諸問題に対する応用経験を得る。	
	技術者ための統計	-	工学において偶然性を伴う現象を解析する場合に必要な統計的な処理について学習する。観察や実験で得られたデータの整理を通じて、確率変数や確率分布の概念を理解する。また、代表的な確率分布である正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布の数表の使用に習熟する。さらに、母集団や標本分布について学び、それらを用いて母数の推定・検定ができるようになる。	
	AI基礎	-	AI (Artificial Intelligence) に関する、基本的機能や活用例を、アクティブラーニングをとおして体験し、最先端技術について、さまざまな基本的実例を通して学ぶ。サイエンス・テクノロジーの新しいパラダイムに対応できる素地を涵養するため、AIの歴史、AI独自の画像認識、文章カテゴリー化と自然言語処理、対話型音声識別などの基本的内容を理解し、基本的操作ができるようになる。さらに、機械学習（深層学習）に必要な初等的なデータ構成ができるようになる。	
	データサイエンス基礎Ⅰ	-	データサイエンスの非常に大きな部分を占めるデータ解析に関して、最も基本的な手法であるデータ集計の各種の手法および回帰分析の二つを身に付けることを目指す。データ集計と回帰分析を理解して実践できるようになり、実際のデータ活用を行えるようになることが目標である。	
	データサイエンス基礎Ⅱ	-	データサイエンスに関連して広く用いられているクラスター分析、決定木分析、（人工）ニューラルネットワークの三つの手法を身に付けることを目指す。データを用いた分類や予測を理解して実践できるようになることが目標である。	
基礎プロジェクト科目	プロジェクトデザイン入門（実験）	-	実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。各学生が所属する学科の特徴的な対象や現象を実験テーマとして、現象に関わるデータを収集→整理→分析→仮説→視覚化→報告に要する「データ取り扱いスキル」の基本を学習する。さらに、学習した実験知識・技能を活用し、問題発見から解決にいたるプロセスおよびデータに基づく検証活動の基本スキルを学習する。	
	プロジェクトデザインⅠ	-	実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。その基本的なプロセスは、実生活や実社会の中に存在する問題に気づき、データに基づいて現状を把握し、原因を分析したうえで、解決策を見出し、第三者にわかりやすく伝えるものである。自身が当事者もしくは関係者となる身近な問題の解決に向けてチームで取り組み、論理的な思考に基づいた問題解決を行う。	

リ ベ ラ ル ア ー ツ 系 科 目		プロジェクトデザインⅡ	-	実社会における他者の問題の解決に向けて、必要な知識・経験・情報を収集し、個人またはチームでそれらを統合して、チームで組織的にプロジェクト活動を行う。メインテーマによりその流れは異なるが、先行科目のプロジェクトデザインⅠで習得した基本スキルをもとに「問題発見→現状把握→課題決定→解決案の決定」の各段階において、より深いプロジェクト活動を効率的に行う。活動を通して、解が多様な課題を探索し、論理的かつ創造的に解決する力を身につける。	
		プロジェクトデザイン実践 (実験)	-	プロジェクトデザイン入門・Ⅰ・Ⅱで修得した知識や技術をもとに、問題解決を目指すべく提案した解決案またはその特定部分の有効性を検証する。プロジェクトデザイン入門よりもさらに専門的な知識や技術を駆使し、対象や現象を定量的あるいは定性的に捉え、その特徴・特性・法則性について明らかにする。その過程で、検証活動の進め方および検証に必要なスキルをより深く学習する。	
		I C T 入門	-	パーソナルコンピュータ(パソコン)の仕組みとその能力・可能性を理解する。その上でパソコンを教育・研究・技術開発など、学生として、また社会人となって、活用するための基礎的能力を修得する。特に、文書作成やプレゼンテーション資料作成の伝える力を修得する。	
		データサイエンス入門	-	データの取扱いの基本を学ぶ。データ取扱いの入門ツールである表計算ソフトExcelの基本操作を学ぶ。そして、Excelを使用して、実験データやアンケートデータの集計・分析など、データの取扱いスキルを学ぶ。また、Excelを使用して、社会の実際のデータ(オープンデータ)を可視化することにより、データがもつ意味を理解し、データを集計・分析する力を身につける。	
	文 理 横 断	日本文学の世界	-	日本文学作品の読解を通じて鑑賞する能力を高めて心情を豊かにし、国語表現(特に手紙文や敬語)について学習して、文書による表現力を伸ばすことを目標とする。作品としては、韻文・説話・物語・随筆・軍記などの優れた古典文学作品に加え、明治時代以降の小説等を扱う。	
		人間と哲学	-	知性・独創性を養うために、哲学者の思想に触れて、その内容を理解する力を身につける。またそれをもとに自ら考える力を身につける。さらに、哲学的思考を他者と討論することによって、自らの考えを持つと同時に、他者の考えを理解し、他者とともに考えることを実践し、批判的思考力を養う。これらを通して、人間力を備えた、自ら考え行動する技術者になるために必要な思考力を涵養する。	
		法と社会	-	知的財産権や製造物責任など、技術者にとって必要な法知識を習得し、それを踏まえて、毎日報道される様々な事件について問題点を指摘し、論理的に考察して、自らの考えを明確に説明できるようになることを目的とする。	
		経済と社会	-	多様で複雑な現代において、人間の生活に大きく関わっている経済と、経済の主体の一つである会社について、機能や役割などの理解を深めることを目標とする。以上から経済の基礎的な知識、ならびに経済において大きな役割を担う会社について、制度や法律、社会への対応といったことの基礎的な知識を学ぶ。	
		こころのはたらき	-	自他の行動を心理学的な視点から考察し、人間に対する洞察力を涵養すること、人の心に関する講義や討議で得た知識やスキルをもとに、自己成長につなげることを目標とする。	
		グローバル社会(ヨーロッパ)	-	「書物」をテーマとして日欧交流の歴史を学び、グローバルな視野を獲得することを目指す。さらに、今日のグローバル社会において、今後どのように国際交流を深めてゆくべきか、他者と意見交換を重ねながら、自らの考えを深め、国際社会へ出て行く力をつちかうことを目標とする。	
		グローバル社会(アジア)	-	アジア圏の外国文化を総体的に理解し、これを基に他文化に対する受け入れと理解することによって文化間の疎通の機会を提供するとともに究極的には人類が共に生きていく共存共栄の道を模索する。また、文化学習を達成するために衣食住など伝統文化、大衆文化、遊び、観光を中心とした余暇文化、ライフスタイルなどを比較しながら相互理解した上で、意思疎通能力を培うことが目的である。	
		芸術へのアプローチ	-	知性と教養・感性と徳性および技術者としての倫理観の涵養を図るために古今東西の造形芸術、特に絵画・工芸作品を通してそれぞれの持つ時代性や地域性を具体的に考察する。構図や彩色などの造形上の工夫を読み取ろうとする姿勢を通して、作品の底流にある作者の精神活動に思いを至らせる。さらに、その精神活動の基底に触れることによって、先人の生きることへの真摯な姿勢を理解する。	

科学技術と社会	-	科学と技術の関係、科学・技術と社会との関係などについて歴史的観点から検討する。科学の成果や技術的な解決が社会や環境に与える影響や、科学技術と社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、理解を深めることを通して、今日の科学者・技術者は社会を支える営みに携わる当事者であるという視点を確立し、自身の見解を論じられるようになることを目指す。	
技術者のためのコミュニケーション	-	技術者が仕事を進めるために必要となる、自分の考えていることを論理的にまとめ、明確に文章や口頭で他人に伝える力、同時に相手の言っている内容を正しく聴き、理解する力、さらにチーム内で信頼関係を築き、相乗効果を生むようなコミュニケーションを図る力を体得する。	
国際関係論	-	現代の国際政治・国際社会について「今起きていること」を中心に説明する。領土問題、人種・政治思想などによる社会の分断、日米同盟の抑止力強化、経済安全保障などについて理解を深めるため、映像資料や政府資料、報道記事を活用。授業の最後にはグループに分かれて班別討議を行い、その結果を発表。討議テーマは講義時に指示する。発表後は全体討議を行い講師より講評を行う。	
危機管理論	-	21世紀の日本を担う学生たちに危機管理の重要性を理解させ、危機に的確に対応できる人材を育成する。多様な危機の原因究明とその予防や被害最小に向けた態勢構築については、今後、ますます複雑化・混迷化する予測のもと、学生の自己啓発、自己研鑽に資することを目標とした授業を行う。	
日本国憲法	-	日本国憲法を通じて、日本はどのような国家なのかを理解し、どのような国家であるべきか、日本人としていかに行動すべきかを考えられるようになることを本講義の目的とする。また、教員試験や公務員試験を志す学生は、受験に不可欠な憲法の知識を習得する。	
韓国語入門	-	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する。初心者にとってハングル文字は音楽の楽譜のようなものなので、文字や発音についての基礎を学習する。文法の学習は最小限に止め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四機能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。また、韓国語の世界が身近になるよう、視聴覚メディアなどを通じて、文化・風俗・歴史・社会の事情についても学び、国際的視野を広げる一歩とする。	
企業の組織と戦略	-	企業活動の事例学習を通じて、「会社」「企業」と我々の生活との関わりや商品やサービスの提供といった企業活動の実態、経営資源と企業活動、企業間の競争と経営戦略に関する理解を深める。更に事業の多角化、企業活動の国際化、企業の組織についても理解する。また、「自ら考え行動する技術者」を目指し、自ら調べた内容に基づいて多面的に考察する力と、その結果を第三者に論理的に伝える力を養う。	
A I プログラミング入門	-	AIに関連する技術を扱う際に必須となっているプログラミング言語 Pythonの基本的な内容について学ぶ。具体的には、変数、関数、制御文、繰り返し文などの基本的な内容に加えて、リスト、コンテナの処理、イテレータ、モジュールの利用などについて学ぶ。処理概要が与えられたら、入力、処理、出力を整理して、Python言語のプログラムを作成し、動作に問題があれば修正できる能力と、他者が書いたプログラムの処理内容を理解し説明できる能力を養う。	
A I 応用 I	-	人工知能の中心技術である深層学習(ディープラーニング)の基礎、画像認識分野で幅広く活用されている畳み込みニューラルネットワークや時系列データを処理するためのリカレントニューラルネットワークの仕組みと活用法などを実践的に学び、知能システムの実現に向けて重要な技術となる深層学習やその応用システムについての理解を深める。	
A I 応用 II	-	人工知能の最も中心となる自然言語処理に関する基礎的な技術をマスターし、特に、文解析、情報検索、文書分類、対話システムなどの応用システムに関する理解を深めることを目的とする。	
ビジネスデータサイエンス	-	データ分析に関する基本的な概念や手法を学ぶとともに、データ解析の基本的な手法を習得して、実際にデータ活用を行えるようになることを目指す。	
データサイエンス応用	-	典型的な機械学習の問題である回帰問題、分類問題、次元削減、クラスタリングの諸問題を、Python の機械学習ライブラリである scikit-learn を用いて適切に分析できる実践的なスキルを身につけることを目指す。	

I o T 基礎	-	IoTシステムを構成する基本技術について体系的に学びながら、どのような現場でIoTを活用できるかについて、IoTシステム構成と構築技術（IoTシステムアーキテクチャ、IoTサービスプラットフォーム）、センサ／アクチュエータ技術と通信方式（IoTデバイス、ネットワーク、LPWA、プロトコル）、そして、IoTデータ活用技術（ビッグデータ分析技術、活用事例）やIoT情報セキュリティ対策技術（脅威と脆弱性、セキュリティ対策技術、情報セキュリティの標準と法制度）、IoTシステムのプロトタイピング技術（プロトタイピング活用）を学ぶ。本科目の履修により、IoTシステム技術検定試験の「基礎」から「中級」を合格できるレベルの知識を習得することを目指す。	
I o T プロトタイピング	-	IoTシステムを構築するためのマイコンを用いたプロトタイピング手法を学ぶ。プロトタイピングの考え方やプロセスやIoTシステム構築に必要な基本知識としてマイコンを用いたセンサやアクチュエータの利用方法、ネットワークの利用方を理解する。そして、個人およびチームでIoTシステムの提案とプロトタイプを作成する。	
I o T プログラミング入門	-	マイコンを動作させながらコーディング技術を学ぶ（C言語）。具体的には、変数、演算子、条件文、繰り返し文、関数、I/Oポート、A/D変換、PWM、UART通信を利用して、センサ、LED、モータなどを使ってアイデアを実現させるコードを作ることを目指す。	
ドローンプログラミング	-	Pythonを使って、小型ドローン（DJI-Tello）をプログラミング制御する方法を学び、DJI社が公開している仕様に従ってTelloとUDP通信し、機体制御及び機体情報の取得を行うマルチスレッドプログラムを作成する。開発環境は、オペレーティングシステム：Linux。言語はPython3（使用モジュールは主に socket、threading、opencv、pygame、pyqtgraph）である。	
I o T 応用	-	IoTを実現するために必要なハードウェアとセンサーを使った基礎的なシステム構築の手法を実践的に学ぶ。マイコン（ラズベリーパイ）と各種センサーを用いて、センサーの値をネットワーク経由でクラウドへ収集・蓄積する手法や、クラウド側の蓄積データを解析してモータや小型LEDディスプレイなどのデバイスからデータを出力する手法を学ぶ。C言語またはPython言語でプログラミングする。	
ロボティクス基礎	-	基本的なロボットの制御手法について、実システムのロボットカーを制御対象とし実践的に学ぶ。具体的には、レゴマインドストームとリアルタイムOSを使ったロボット制御プログラミングについて理解を深め、様々なセンサの値をフィードバックしてロボットを操作する方法を学ぶ。また、PID制御などの制御理論の基礎知識についても学ぶ。レゴマインドストームEV3とリアルタイムOSTOPPERS/EV3RTを使ってロボット制御を行い、ライントレースカーの製作・プログラミングを行う。	
情報ネットワーク基礎	-	現在のインターネットを支えるプロトコル群であるTCP/IP、また関連する様々な通信技術の知識と理論を学習する。このことにより、LANやWANなどのコンピュータネットワーク、さらにはWWWがどのようなものであるのかを理解し、ネットワーク運用に関する基礎的なスキルを身に付ける事を目標とする。	
ネットワークセキュリティ	-	TCP/IPを理解していることを前提とし、近年その重要性が高まりつつあるネットワークのセキュリティに関する知識と技術について学ぶ。具体的には、DoS攻撃やSQLインジェクションのようなさまざまなネットワークの攻撃手法とそれに対する対策技術を実践的に学ぶ。また基礎的な暗号理論とその実装についても学ぶ。	
グローバルP D	-	専門分野・国籍・文化的背景の異なる者が、共通の目的達成に向けて協働し、現実社会における問題発見・解決に取り組む。活動では論理的な思考に基づき現実社会の問題を発見し、制約条件下における解決案を創出する。また、創出した解決案をプロトタイプ（モックアップ）や資料として具現化し、関係者と共に解決案を改善・改良する能力を得る。	
未来学	-	私たちにあって望ましい未来社会の姿を考えることができる力、現在の状況から予測される将来の自然的かつ社会的な変化を洞察できる力を養うことを目的とする。Futures wheel、バックキャストリング、シナリオ・プランニングなどの概念やスキルを理解し、ディスカッションを通して、望ましい未来社会の姿を見据え、私たちのとるべき行動について考察する。	
コンセプチュアル思考	-	物事や問題の本質を捉え、多角的な視点から解決策を考えることができる思考法を身につけることを目的とする。問題の中に潜在する見えないものを洞察し、その価値を判断して全体を概念化しながら思考や行動ができるための方法論を学ぶ。また、ロジカルシンキング、デザインシンキングなどの思考法との違いを理解し、他の思考法と融合して活用できる思考力を養う。	

		感性デザイン	-	人々の共感を生み、感動を与えるデザインやものづくりに必要となる基礎知識を修得することを目的とする。人間の情動知能、感性、感情がどのようなものかを理解するとともに、良いデザインやサービスがもつ、こだわり、コンセプト、ストーリーを含むデザインが、どのような形で可視化されているか理解する。また、見えないものに気がつく直観力、感性にもとづく理解力や認識力を養う。	
		サステナブルイノベーション	-	社会情勢や自然環境が大きく変化する現代において、持続可能な未来社会を実現するために必要な、新たな価値を生み出すための基礎力を養うことを目的とする。これまでのモノづくり、コトづくりの歴史に学び、社会や私たちの生活に真に役立つ持続可能なイノベーションに求められる考え方を理解し、価値創出フォーラムを通して精度を高める。	
		科学技術と人・社会	-	科学と技術の関係、科学・技術と人及び社会の関係などについて歴史的観点から理解することを目的とする。科学の成果や技術的な解決が人や社会、そして環境に与える影響や、科学技術と人・社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、ディスカッションしながら意見を交わし理解を深める。	
	教職に関する科目	教育原理	-	教育の原理的考察を通して、自分なりの教育観を持つことを目標とする。そのために、教育理論を踏まえて、実際に行われている学校教育・家庭教育・社会教育の課題を明確にし、これからの教育について考えることのできる基礎的能力を養うことを目的とし、講義とディスカッションを組み合わせる学習する。ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。	
		教師入門セミナー	-	教育と教職の意義、教職に就くまでのプロセス、教師の仕事や教師の実践的指導力について学び、さらに今日の臨床教育について理解する。講話や受講生どうしの討議により、今後求められる教師の役割や在り方について考察することを通して、教職課程で何を学ぶのかについて理解する。これらの学習活動により、受講生各自が自己の教師を目指す者としての適性について熟考し、また教職課程における目標を持ち、真摯に教師を目指して学んでいく態度を涵養することを目指す。	
		教職概論	-	教職の意義、役割、教員の職務内容について学ぶ。教職科目で学んだことを総合的に捉えなおしながら、これからの学校教育における教師の在り方および教職の意義について理解を深め、教育現場で生きて働く実践的指導力を培う。さらに教育実習後は、進路選択の基礎知識をふまえて、教育実習を振り返ることにより、自身の教師としての適性を判断し、進路選択の準備を行う。教職観の確立、教師としての実践的指導力を育成するために、以下の内容で授業を進める。なお、ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。	
		教育制度論	-	学校教育におけるさまざまな取り組みの背景には教育制度がある。したがって教育をスムーズに行うためには、その背景にある教育制度を理解することが重要である。学校教育に関する社会的・制度的・経営的な事項に関する基礎知識とその課題に関して考えることを目的とする。加えて、現在の学校で重要な学校と地域との連携・協働と安全の保障についての基礎知識の獲得を目指す。有意義な教育を支える制度とはどうあるべきなのかを、具体的な事例のなかでの活用についても考察する。	
		教育心理学	-	学校現場で中学校及び高等学校の生徒に対して有効な教育実践を行うために必要な教育心理学の基礎について理解することを目標とし、具体的には、発達・学習・適応、及び教育評価の教育心理学の四領域を概観し、青年期までの各発達段階に関する理解及び発達障害に関する理解と支援の方法について学習する。可能な限り具体的な事例をあげながら、専門的な内容も含めて講義する。	
		学習・発達論	-	学習と発達の理論、発達障害に関する基礎事項を理解し、有効な教育実践を行うためには、生徒の理解の仕組みや心理的狀態を的確に把握できるようになる必要がある。最終的には学習心理学と発達心理学の視点から、有効な教育実践を行う教育者になるために必要な観察眼と考え方を養い、自分なりの教育観を確立することを目標とする。学習心理学と発達心理学に関する教育実践場面への適用を考慮し、教員になったときに生徒たちに学習心理学と発達心理学の知見をいかに活用するのかについて講義とグループ討議を行い考察する。	

特別支援教育概論	-	現在および今後の教育で特に重視されているもののひとつに、何らかの「障害」を持つ生徒への支援がある。特別支援教育は、特定の生徒の成長に寄与するだけでなく、すべての生徒にとっても有意義なものである。本科目では、特別支援教育に関する基礎的な事項の理解を目指し、その方法について考察する。 現在の学校教育において大きな意義を持つ特別支援教育について、教師となる上で必要な知識を示し、教師に求められる「障害」に対する適した見方を身に付ける。	
教育課程論	-	教育課程とは、学校教育の内容や方法の在り方を定めたものであり、それは学校教育の基調に直接的に関わりをもっている。教育課程の内外での歴史的変遷や編成原理を押さえつつ、これからの学校教育における教育課程のあり方について考察する。 新学習指導要領を中心として、今日の教育課程改革の動向を明らかにする。次に、内外の教育課程改革の歴史を捉え、教育課程の編成原理をめぐる諸課題について検討を行う。それらを踏まえて、これからの学校教育における教育課程のあり方について探究する。	
道徳教育の理論と実践	-	道徳教育の本質を理解し、道徳教育の歴史的経緯及び道徳科の意義や目標について説明することができる。また、子どもの発達段階や道徳性の発達を考慮し、道徳教材や指導法に生かすことを通して、指導計画や学習指導案を作成することができる。 さらに、学校の全教育活動を通して行われる道徳教育と「特別の教科道徳」において行われる道徳授業との関係を明らかにするとともに「考え、議論する」道徳授業の実践に必要な知識、指導技術の基礎的能力を養う。	
総合的な学習の時間の指導法	-	教育課程における「総合的な学習（探究）の時間」の意義や役割を理解し、教育実践例から各学校のテーマおよび学習内容の意図等に気づき説明することができるようにする。 また、指導計画の作成を通して、横断的・総合的な学習の効果について考察するとともに、実践のための基本的指導力を身に付ける。さらに、指導方法と評価の考え方や配慮事項について理解し説明することができるようにする。指導計画作成の際の考え方、単元計画の重要性などについて理解を深め、教師の指導力を身に付ける。 児童生徒が課題解決学習を通して、生き方を考えていく上で必要とされる資質・能力を育成するための具体的指導法および評価についての知識・技能を身に付ける。	
特別活動の指導法	-	さまざまな子どもの問題行動が顕在化してきている今日の状況において、教育課程の一領域である特別活動への期待は高まっている。特別活動では「望ましい集団活動」がキーワードとなり、とりわけ学級活動・ホームルーム活動が重視されている。 特別活動の歴史的変遷や理論の動向を踏まえながら、その教育的意義について考察していく。クラブ活動・部活動および学級活動・ホームルーム活動を行う上での教師の指導性についても検討していく。	
教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）	-	「授業」は、教授と学習の統一された過程として捉えられる。このような「授業」を成立させるためには、何をどのように教えるかということが問題となり、教師には教材分析を行う力や学習指導案を作成する力、さらに情報機器やメディア、教材を活用していくことが求められてくる。また、「授業」の後には授業分析や評価が必要であり、それらによって次の「授業」に向けた改善が可能となる。本授業では、学校教育の中心である「授業」を主たる対象として、よりよい「授業」を行うための方法や技術を習得することを目標とする。	
生徒・進路指導論	-	我が国における教育改革の動向を見据えて、生徒・進路指導の諸原理を学び、特に中学校と高等学校に焦点を当て、その目的と意義について考える。さらに、現在の学校教育が抱えている生徒指導と進路指導に関する具体的な問題を知り、これからの生徒・進路指導の在り方について考察する。また、実践に際する配慮事項及び学習、支援活動の具体的指導方法などについて、ディスカッション、ロールプレイング等を取り入れ理解を深める。	
教育相談	-	教育現場で見られる心理的諸問題（生徒・保護者との関わり方、いじめ、不登校、学校不適応、発達障害等）を取りあげる。受講者が児童・青年期の心理的特徴、生徒との対人関係を深める方法、保護者との関わり方など、教師になるにあたり学んでおくべきと思われるテーマについて、集団討議・発表など実践的な方法も取り入れながら理解を深めていく。小学・中学・高校時代を振り返った上で、教師の立場になったという想定で児童・生徒にとって何が必要かを考える機会となるように、模擬面接を交えたグループ討議を実施する。	

教育実習（事前・事後指導）	-	教育実習を行う目的は、学校に体験的に勤務し、自分の教師としての適性を確認するとともに、目指すべき教師像を明確にするために行うことである。この目標を達成するためには、事前の準備として、学校での教師の仕事に関する理解を行った上で、実習生としての心構えを身につけ、実習における目標を持つことが必要である。また、教育実習の事後には、学校での体験を振り返ることによって、教育実習の目標について振り返る。さらにこれらの学習活動を通して、自らが理想とする教師になるための今後の課題を考える契機とする。	
教育実習Ⅰ	-	教育実習においては、大学で学んだ一般教養・専門教養・教職教養などを学校現場において総合的に生かし、授業実習を通して生徒理解を深めるとともに、学校運営や教員の職務実態に触れて望ましい教師像を形成する。 実習校の管理職教員から説明される学校の職務全般について理解し、学校や授業の様子を詳細に観察することが重要である。また、生徒と積極的に関わる態度も必要である。実習では授業実習（教壇実習）が中心となる。さらに、生徒指導や進路指導、課外活動の指導を行う。職務を遂行しながら、教科指導、生徒指導、進路指導など実習で行った職務全般について省察と総括を行う。特に教科指導においては、実習中の総括として研究授業が実施され、実習校の教員からの講評を受ける。	
教職実践演習（中学校及び高等学校）	-	演習や現職教員の指導を受け、教職教養・一般教養・専門教養などの「専門的知識」と教科指導や学級経営などを通して得られた「専門的実践力」を統合し、使命感や責任感、及び教育的愛情に裏打ちされた専門的指導力を高めることを目指す。また、履修カルテを用いた個別指導を行うことにより、各受講生に教員としての資質・能力、適性について自己評価を通して指導助言にあたり、一人一人のキャリア形成を支援する。最終的には、教師に最小限必要とされる資質・能力の確認を行う。	
工業概論	-	高等学校の工業系科目を担当する教員には、工業の各分野についての基礎的・基本的な知識を包括的に身につけていることが求められている。この要請に対応して、工業の各分野を概観し、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識の習得、現代社会における工業の意義や役割の理解、これらの知識・理解と現在の環境やエネルギーの問題を考慮して、工業技術の諸問題を主体的、合理的かつ倫理的に解決するための実践の基礎となる能力と態度を習得することを目指す。	
職業指導	-	学習指導要領において「生きる力」の育成が重視され、その文脈において、とりわけ職業指導（進路指導）のあり方が問われてきている。児童生徒の今日的状況や教育改革の動向、職業指導（進路指導）の歴史を踏まえつつ、生徒が自らの生き方を選択・決定し、自己実現を果たせるような職業指導（進路指導）のあり方を考察する。 前半では職業指導（進路指導）の歴史と理論を学び、また今日の児童生徒を取り巻く教育的・社会的状況を分析しつつこれからの学校教育における職業指導（進路指導）の可能性を考察する。後半では、学校における職業指導（進路指導）実践のあり方について検討し、理解を深める。	
工業科教育法	-	工業教育の目標は「工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境及びエネルギーに配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に、かつ倫理観をもって解決し、工業と社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことにある。工業高校の教員として上記の目標を達成するために、適切な授業運営を行うことができる基礎的な知識や実践力を身につけることを目指す。	
情報科教育法	-	今日の高等学校では、教科のひとつとして「情報」が位置づけられており、その位置づけは、教育課程全体においても重要なものとなっている。教師には、コンピュータをめぐるさまざまな知識や技能が必要となることはもちろんのこと、生徒がこれらを効率的かつ適切に習得するための実践的指導力を身につけることが求められる。「情報」を教える教師としての基礎的な知識を習得し、さらに実際に高等学校での授業運営を適切に行うことができるようになるための実践的指導力を身につけることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報デザイン学部 経営情報学科）				
科目 区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専 門 科 目	情報デザイン学キャリアデザイン（経営情報）	○	情報デザイン学部の経営情報学科と環境デザイン創成学科における学びの分野、さらに各学科において4年間のうちに学ぶカリキュラムの概要を理解する。本科目では、講義だけでなく、学生どうしでの討論や卒業生・社会人との議論等を行う。これらの経験を介して、修学する意義を自ら考え、能動的に探究する学習姿勢を身につけて、自らの将来目標を実現するための長期的なキャリアデザイン、およびそのキャリアデザインの第一歩となる在学中の修学計画を立てることができる能力を身につけることを目標とする。	
	Webデザイン	○	経営情報学科の教育目標である情報デザイン基礎力習得を目指す。特にIT基礎能力の習得のために、コンピュータ、インターネット、マークアップ言語などの基礎知識を身につける。さらに、情報メディアの効果を最大限に生かしたコンテンツ作成・管理・保守を行い、ITの基本的な素養を習得することを目指す。	
	経営学入門	○	経営情報学科の学習・教育目標である「マーケティング能力」「マネジメント基礎能力」及び「財務会計基礎能力」を育むための基礎的な科目である。ビジネスと社会の関係、ビジネスのために必要な組織、経営戦略、金融、会計およびマーケティングに関する基礎的な用語や概念について学ぶ。	
	企業会計基礎	○	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。すなわち、経営者および企業の利害関係者の意思決定に寄与する会計情報について、その作成過程を理解するとともに、会計情報伝達手段である財務諸表の内容・役割の理解を目標とする。	
	データアナリティクス入門	○	経営情報学科の学習・教育目標「マネジメント基礎能力」を身につけるための科目である。アンケート調査を題材として、データの収集、集計、視覚化までを行うことができる能力を身につけるとともに、サンプリング、分散、標準化、相関の統計手法を活用できる能力を身につけることを目指す。	
	ITシステム基礎	○	経営情報学科の学習・教育目標「情報デザイン基礎力」達成のための科目である。利用者側において情報技術に関する一定の知識・技能を有する者を育成する。ITパスポート試験相当の学習項目のうち、キーワードで表記された内容を中心に学ぶとともに、経営情報学科の専門分野を理解する。	
	プログラミング基礎	○	経営情報学科の学習・教育目標の「情報デザイン基礎力」に対応する科目である。コンピュータプログラミングの基礎的な能力を身につけるために、プログラミングの全体を俯瞰的に把握するとともに、条件分岐、繰り返し、関数、オブジェクトの基本的な用語や使い方の基礎を理解することを目指す。	
	経営戦略と組織	○	経営戦略、顧客、価値、事業、コア・コンピタンスなどの基本用語・概念について説明でき、またそれぞれの語の関係について説明できる。企業活動・経営管理・経営戦略に関する基本的な考え方・ツールについて説明できる。	
	マーケティング基礎	○	経営情報学科の「マーケティング能力」育成の基礎科目である。本科目を通じて、企業経営に必要なマーケティング活動の概念や理論および手法などを学習し、情報収集と事例分析によってそれらの役割と効果を確認する。具体的には世界的に広くマーケティング論の学習に使用されているコトラー&ケラーのマーケティングマネジメントの第一部の習得とコーオペ教育、CDIOの実践等の社会との共創に向けたイメージ作りも目指す。	

ビジネス統計学Ⅰ	○	経営情報学科の学習・教育目標「マーケティング能力」及び「マネジメント基礎能力」達成のための科目で、データ分析に欠かせない「統計学」の基本を学びながら、ビジネスの現場で直面する意思決定の際に欠かせない情報の抽出能力を磨く。具体的には、記述統計学、確率分布、及び推測統計学の区間推定の基本概念を理解し、Excelなどを使ってデータ分析し、データ分析の進め方、仮説検証サイクル、分析目的の設定など、統計的意思決定に必要な情報を算出できるようになる。	
経営分析とESG	○	経営情報学科の学習・教育目標の「財務会計基礎能力」に対応する科目である。経営者が将来的にその職務を果たすためには、経営活動に関する分析情報が必要である。また、企業の利害関係者は企業活動によってその利害関係に影響が出るために、経営活動に関する分析情報を必要としている。そこで、当科目においては経営分析の知識と技能を習得し、経営分析結果について多面的な視点から総合的な判断ができる能力の養成を目標にしている。	
戦略会計入門	○	経営情報学科の学習・教育目標の「財務会計基礎能力」に対応する科目である。すなわち、企業の財務管理を利益管理と資金管理の側面から捉え、会計情報との関係から、利益計画の作成、資金計画の作成に関する技能を養うことを目標にしている。	
イノベーション・デザイン	○	経営情報学科の学習・教育目標「ビジネス応用実践能力」の基礎力を育成するための科目である。本科目では、SRI（旧スタンフォード研究所）が開発したイノベーション創出方法の活用方法を学ぶことを通じて、アイデアをいかにイノベティブなものへと発展させていくかを学ぶ。	
ロジカルシンキング	○	ビジネス・リテラシーの最も基礎となる「ロジカルシンキング（論理的思考）」能力の基礎を身につけることを目標とする。ビジネスで必要とされる、①問題の原因を論理的にとらえる、②問題の解決策を合理的に作成する、③上記①②をわかりやすく伝える、を具体的な実践目標として、ロジカルシンキングで良く用いられる手法等を紹介し、実際に使えるように身につけることを目指す。	
データベースマネジメント	○	経営情報学科の習得する知識・能力のひとつである情報デザイン基礎力を付けるためのものである。データベースは、データ間の整合性を保証しながら、複数の応用プログラム間でデータを更新・共有・再利用するためのシステムである。この授業では、リレーショナルデータベースの基礎理論、データベース設計、データベース言語SQL、データベースの運用について学ぶ。	
Webプログラミング	○	経営情報学科の学習・教育目標の「情報デザイン基礎力」に対応する科目である。サーバで動作するコンピュータ・プログラミングを行う能力を身につけるとともに、データベースと連携した動的なWebページを作成する能力を身につけることを目指す。	
ビジネス統計学Ⅱ	-	人文・社会科学に関する評価問題では、多くの特性を同時かつ総合的に取り扱わなければならない場合があり、多変量解析手法はこのときの有効な解決手段となる。本講義ではExcelの関数を用いて多変量解析の考え方と使い方を学習する。特に、評価過程の予測解析手法および多変量データの要約方法の修得を最大の目標とする。また、今後の学習活動で、これらの手法を使いこなせるようにすることも目標の一つである。	
数理マネジメント	○	経営情報学科の学習・教育目標「マネジメント基礎能力」を身につけるための科目である。そのために、オペレーションズ・リサーチ（OR）の基本的な考えを理解する。ORは意思決定問題の解決に役立つ数理的な手法群の総称であり、定量的かつ数理的な考え方をビジネスに役立てるための基礎的な技術である。この科目では、ORの基本となる在庫管理、待ち行列理論、最適化手法（線形計画法）などの数理的なモデルと手法を理解し、実際のビジネス上で発生するような問題を解けるようになることを目指す。	
システムモデリング	○	経営情報学科の学習・教育目標「情報デザイン基礎力」達成のための科目である。複雑なシステムを正しく認識し、課題発見や改善提案を行うためのモデリング能力を習得する。本授業では、概念モデリングをUML（統一モデリング言語）のクラス図、オブジェクト図、ステートマシン図、活動図などを用いて記述する能力を身につけることを目指す。	
マーケティング戦略	○	経営情報学科の「マーケティング能力」育成の基礎科目である。講義を通じて、企業経営に必要なマーケティング活動の概念や理論および手法などを学習し、情報収集と事例分析によってそれらの役割と効果を確認する。具体的にはコトラー＆ケラーのマーケティングマネジメントを教科書として使用して第3部から第7部の内容を外部講演者による特別講義を交えて実務に関連付けた習得とコーオプ教育、CDOの実践等の社会との共創に向けたイメージ作りも目指す。	

戦略会計応用	○	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。すなわち、企業経営者が行う業務的意思決定や構造的意決定について、会計情報を活用して判断できる能力を養成することを目標としている。	
会計情報とビジネス法規	○	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。即ち、会計情報が何を伝えているのか理解するために、重要な会計基準を理解するとともに、企業の一般的な開示書類である有価証券報告書の記載内容を理解することができるよう、周辺知識として税制や会社法・民法等の法律知識の基礎的な部分を理解することを目標とする。	
インダストリアルエンジニアリング	○	経営情報学科の学習・教育目標である「マネジメント能力」と「ビジネス応用・プロジェクト遂行能力」達成のための科目である。計画、管理、改善などに関する基礎的な用語と手法を学ぶことを目標とする。具体的には、管理工学（インダストリアルエンジニアリング）における各種の定量化と可視化に基づく科学的な管理手法、データの取得と分析に基づく改善などを具体的に学び、製造業だけでなく種々の業界に共通する改善手法の基礎を身につける。	
サステナブルファイナンス	-	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。即ち、企業経営に必要な資本の調達について、その基本的な考え方や手法が理解でき、具体的な企業の資本調達事例を分析・検討できる能力の養成を目標とする。また、あわせて代表的なFintechサービスを理解することを目標としている。	
SDGs 基礎	○	経営情報学科の学習・教育目標「ビジネス応用実践能力」達成のための科目である。本科目では、「環境技術」を温室効果ガスや公害対策のための技術と捉えるのではなく、地球環境の持続可能性を向上するための技術、すなわち、持続可能な開発を促進するための技術として捉える。そして、グローバルイシューの実態、関連する企業の取り組みを研究・分析することで、SDGs（持続可能な開発目標）経営の考え方を身につける。	
先進プログラミング	○	経営情報学科の専門コア「情報デザイン基礎力」達成のための専門コア科目である。地域の活性化や経営に役立つIT活用の考え方、実践に必要な情報の捉え方、およびデータから意思決定に必要な分析を体験できるように、実際のビジネスや地域ニーズを近似した環境を既存のデータ分析ツールを利用して学習する。その過程を通して、地域活性化戦略や経営に必要な戦略立案方法を用いながら、データ収集蓄積と経営課題解決のための仮説設定に基づくデータ分析による意思決定の方法を学ぶ。	
アルゴリズムとデータ構造	○	情報経営学科の学習・教育目標「情報デザイン基礎力」達成のための科目である。経営と情報システム・インターネットを融合し活用するためには、課題の解決方法・手順であるアルゴリズムの理解が必要である。受講者は、最新のアルゴリズムを学習することにより、各自の想定する経営組織体の課題解決を自力で考案できる能力の取得を目指す。	
原価管理	○	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。即ち、製造業を営む企業が製品原価や売上原価を算出する過程を工業簿記との関連で捉えるとともに、個別原価計算・標準原価計算において生じる原価差異の分析方法を学びながら、原価管理の考え方と会計処理方法を学ぶことを目標にしている。さらに、製造業に限らず非製造業も含めた戦略的原価管理に対する理解を図ることも目標としている。	
データアナリティクス	○	近年、注目されているデータサイエンスに関して、その基本的な手法の原理と実践について学ぶ。具体的には、データ集計、回帰分析、クラスター分析、決定木解析、および近年のディープラーニング（深層学習）の基である人工ニューラルネットワークに関して学ぶ。このような手法に関して、ビジュアル的な操作で分析を行うデータ分析のフリーウェアKNIME、およびPythonとそのライブラリを用いて実際に手を動かして、ビジネス現場における実践的な分析を行うことができるようになることを目指す。	
マーケティング実践	○	経営情報学科・マーケティングコースの基礎・応用科目である「マーケティング基礎」と「マーケティング戦略」の講義を通じて学習した企業実務者・経営者（CMO：チーフマーケティングオフィサー）に必要なマーケティング活動の概念や理論および手法（フレームワーク）などを最先端（DX）マーケティングの事例（テクノロジー）等をケーススタディ（ディスカッション）やフィールドワークにより修得し、社会実装・実践できるようになることを目標とする。	

専門 プロ ジ エ ク	SDG s 実践	○	経営戦略分野科目の集大成として、国連全加盟国が達成を目指すことで合意しているSDGs（持続可能な開発目標）をビジネスを通じて解決を目指すために必要なプロデュース力を身につける。プロデュース力を身につけることで、様々なステークホルダーが持つリソースや能力を発見し、組み合わせ、社会課題の解決を実現することができるようになる。授業終了時には、自分ひとりの力だけではなく、他者の力を掛け算することでより大きなインパクトを生み出せる人物へと成長することを目指す。	
	グローバルリーダーシップ 実践	-	経営情報学科の学習・教育目標である「ビジネス応用実践能力」達成のための科目である。組織とは人の集まりであり、自分を含めた人とのように向き合うのかによって、組織が発揮できるパフォーマンスも大きく変わる。本科目では、リーダーシップに関する知識を習得するとともに、社会人になってから役に立つ上司のマネジメント、部下のマネジメント、自分のマネジメントに関する手法の習得を目指す。	
	企業価値評価とESG	-	経営情報学科の学習・教育目標の「金融能力」に対応する科目である。即ち、事業再編、Mergers and Acquisitions (M&A)、投資などの際に重要視されている企業価値評価について、その基本的な考え方や算定方法についての理解と算定技能の向上を図ることを目標にしている。さらに、企業価値評価のベースとなるキャッシュフローの持続的な創出に影響を与える「ESG」の基本的な概念を理解することを目指す。	
	アカデミックリーディング	-	経営情報学科の学習・教育目標の「プロジェクト遂行能力」達成のための科目である。すなわち、3年間本学科にて修得した経営情報に関する分析手法、予測手法、情報技術等を活用することが、ビジネス環境でいかに重要であるかを理解し、今後の活動に活かせることを目標とする。本科目では、実践的な能力を総合的に修得するために、ゼミ形式で実施する。	
	データサイエンス実践	○	経営情報学科の学習・教育目標である「マネジメント能力」と「ビジネス応用・プロジェクト遂行能力」を身につけるために応用的なデータ分析の知識とスキルを身につける科目である。近年のAI（人工知能）の基礎となる手法を、PythonおよびGoogle Colaboratoryを用いて実際に手を動かして学び、ビジネス現場における有用な分析を実践できるようになることを目指す。	
	システム思考	○	経営情報学科の学習・教育目標「情報デザイン基礎力」達成のための科目である。私達を取巻く環境は様々なものが複雑に絡み合って構成されている。それらを一つの側面からだけ観察・分析してモデル化やIT化しても期待した効果が上がらないことがあるだけでなく、新たな問題を生み出すことがある。静的なモデリングだけでなく、時間とともに変化する構成要素の挙動やフィードバックについて学ぶ。	
	先進プログラミング応用	○	経営情報学科の学習・教育目標「情報デザイン基礎力」達成のための科目である。Pythonを用いて現実的なシステムとしてビッグデータ解析を取り上げ、データの見える化、分類・識別、回帰・予測、クラスタリング等を行う。実際に時系列データベースに保存されている大容量データを用いた実習を、アジャイル開発手法によるプログラミング開発を行う。システム開発の基本的な能力を身につけることを目標とする。	
	経営情報専門実験・演習A	○	経営情報学科の学習・教育目標である「ビジネス応用・プロジェクト遂行能力」向上を目的としている。専門科目の①金融、②マネジメント（SDGs及びデータ分析）の知識およびスキルを、PD実践で考案された活動を題材にして理解を深める。具体的には、①PD実践で考案された活動に関して事業（財務）計画を検討・作成する演習、②①で作成された事業計画を出発点として非財務指標も含めた戦略マップを作成する演習、③①、②で作成したものに対して因果モデルを作成し最適化を行う演習から構成されている。	
	経営情報専門実験・演習B	○	本実験・演習は、経営情報学科の学習・教育目標であるビジネス応用実践能力について、ビジネス戦略分析・提案、ビジネスゲームでの模擬体験、並びに組込みシステム・プログラミング演習を通じて、実践的スキルを向上するための科目である。具体的には、既存企業のビジネス戦略分析・提案、ビジネスゲーム、小規模システムのプログラミング体験を行うことで、システム分析、会計、ビジネスとITとの関係に関する深い理解を得て、経営意思決定能力の向上を果たすことを目的とする。	
	イノベーション基礎	○	社会情勢や自然環境が大きく変化する現代においては、未来を展望する技術革新や構造改革が望まれており、専門知識と実践スキルのバランスを重視した実践的なイノベーション力が強く要望されている。この科目では、顧客のニーズを捉えて、イノベーションを生み出すための基礎力を養うことを目的とする。	

ト	専門ゼミ	○	経営情報学科の学習・教育目標の「プロジェクト遂行能力」達成のための科目である。専門ゼミでは、プロジェクトデザイン・実践教育を基礎に、プロジェクトデザインⅢにおけるプロジェクト企画と活動をプロジェクトプロポーザルとしてまとめ、第三者に分かるように説明できるようになるために、知識や技能を自主的に補充、修得する。	
	プロジェクトデザインⅢ	○	経営情報学科の学習・教育目標の「プロジェクト遂行能力」達成のための科目である。すなわち、この科目に取り組んだ結果として、自分が実施した研究に対する能力を身につけることはもちろん、そのテーマの背景や関連する事項についても十分理解できるようになることを狙いとする。具体的には、プロジェクトデザインⅢプロジェクトへの取り組みを通して、専門基礎科目、専門科目で修得した知識をより深く理解し、それらを応用できるようになることが求められる。	
	進路セミナーⅠ	-	経営情報学科の学習・教育目標である進路計画能力達成のための科目である。すなわち、修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身に付けるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につけることであり、特に、将来の進路について行動指針を決定でき、自己の能力・性格特性を正しく認識し、自己啓発を継続し、自己管理能力を高め、自己実現への努力を続けることができることを目指すのが本講の目標とする。	
	進路セミナーⅡ	-	経営情報学科の学習・教育目標である「進路計画能力」達成のための科目である。すなわち、将来の進路について行動指針を決定でき、自己の能力を正しく認識し、自己啓発を継続し、自己管理能力を高め、自己実現への努力を続けることができることを目指す。	
その他				

授 業 科 目 の 概 要				
（情報デザイン学部 環境デザイン創成学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
修学基礎科目	修学基礎 A	-	本学での学習環境を把握し、学業継続を妨げる生活リスクを理解した上で、よりよい学習と生活のための計画を立てることができる。さらに、その計画のもとで自己管理を行い、学習に意欲的に取り組むことができる。また、共同の重要性も認識し、実践することができる。本学学生に期待される学習と生活に取り組む適切な姿勢を「学修支援システム」などを活用して身につけることができる。本学の様々な授業形態や学習スタイルを理解し、その基礎を身につけることができる。	
	修学基礎 B	-	学習や生活に取り組む態度と方法の重要性をポートフォリオの作成やグループ討議などを通して認識し、積極的かつ継続的に行動することができる。キャリアデザインの重要性を理解し、在学中に身につけるべき能力について考える。自分の「強み」を把握し、自らのキャリアデザインの実現に向けて主体的に行動することができる。「社会」の状況を踏まえたリサーチ・ペーパーの作成などを通じ、論理的な文章を作成する上で必要な知識やスキルの基礎を身につけることができる。	
人間形成基礎科目	実践ウェルビーイング	-	この授業の教育目標は、受講生が自分の人生を前向きにとらえ、意味のある目的を持って生きていくことを促進することである。対人コミュニケーションスキルの訓練を含む多くのポジティブエクササイズが用意されている。受講生はこれらのエクササイズに積極的に取り組むことが期待される。これらのエクササイズは以下を達成するための基本的な要素を提供する。すなわち、受講生が自らのウェルビーイング（幸福感）を意識し、意味のある人生の目標を見出し、多様性の世界で自分を探求していくことである。	
	技術者と持続可能社会	-	社会における会社などの企業で、充実した業務を推進するために必要と思われるSDGsなど、持続可能社会の動向や企業の役割と、そこで働く技術者の責任・やりがいなどを理解する。そして、経営の基本知識と研究開発・生産のプロセスなど技術者の仕事に関連する事柄を学び、社会には多岐にわたる業界があり、広い分野の多様な職種で技術者は活躍していることを理解する。なお、グループ討議・発表を通して、自分で調査した項目の意見交換により、技術者の仕事について理解を深め、発展する社会で活躍するために、イノベーションの事例を学ぶ。	
	日本学（日本と日本人） A	-	日本における歴史上の人物の生涯を学ぶことで、その生き方・考え方を知り、それらを通して日本人の特質・行動規範などについて理解し、今後の自身の問題と照らし合わせて考える。さらに、各種神話や建国伝承を学ぶことで、多様な価値観の存在を知るとともに、日本人の特質を考える。併せて「読む・聞く・考える・書く」といった基礎的能力の向上を図る。	
	日本学（日本と日本人） B	-	日本の歴史・文化・伝統に対する理解を深めつつ、日本および日本人の特質について様々な角度から考える。一方、行動する技術者、ひいては国際性豊かな広い視野をもつ人間となるための前提として、諸外国のもつ多様な文化・価値観にも眼向け、日本と異なる歴史や文化・伝統を公平に評価できる真摯な姿勢の大切さを学ぶ。これらのことを通して、「読む・書く・聞く・話す・考える」といった基礎的能力の向上を図る。	
	科学技術者倫理	-	科学技術がグローバル化の進む今日の社会および環境に与える影響について考察し、科学技術の目的・役割と社会との相互作用についての理解を深める。また、科学技術者が専門職として担う倫理的・社会的責任を検討する。さらに、実務を行う上で直面する倫理的な問題を検討し、それらを解決する問題解決能力の向上を図る。以上の学習を通して、「科学技術者倫理」が単に規範の遵守ではなく、価値のバランスを取りながら「自らがなすべき行動を設計する」という創造的な知的営みであることを学ぶ。	
	健康・体力づくり	-	生涯にわたり健康で豊かな人生を営むために、生活習慣病や健康・体力づくりに関する知識、自己の健康・体力を測定・分析する方法の学習を通して、個人の状況に応じた運動処方（トレーニングプログラム）を作成できるようになる。また、健康・体力の自己管理の重要性を理解し、実践できるようになる。さらに、学生生活に潜む様々なリスクの理解や、これらの学習活動を通じて、協調性やリーダーシップ、規則を守るなどの基本的事柄を体得する。	

		生涯スポーツ演習	-	スポーツの基礎技能習得をねらいとする学習活動を通じて、生涯にわたりスポーツを楽しむこと、スポーツ活動を自主的・主体的に計画・実行（実践）・評価・改善するための知識や能力や社会（学生）生活を営むうえで必要な事柄（ルールと規律を守る心、仲間に対する敬意と思いやりの心、チャレンジ精神、リーダーシップ・フォロワーシップ、責任感、安全に対する意識、コミュニケーション能力など）を身につけることができるようになる。	
	人間と自然	人間と自然	-	グループ活動を通して、協同する大切さを理解し、他者の意見の根拠を考え自己の考えと比較し思考する姿勢を身につけることができる。科学技術者に求められる倫理観について考え続ける大切さを学び、研究施設の見学や、教職員及びクラスメートとの会話を通して、学びの広がりや深まりを理解することができる。	
英語科目	英語	イングリッシュトピックス 1	-	日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 2	-	日常生活・社会・世界などのトピックに関して英語でコミュニケーションを取る能力を修得するとともに定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 3	-	日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得する。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、自律して英語を学習するための効果的な学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 4	-	日常生活・環境・テクノロジー・社会変容などのトピックに関して英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の語彙及び構文を学習し、授業内での会話や討論、文章の読み書きに应用する。さらに、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。	
		イングリッシュトピックス 5	-	社会・科学・文化に関するトピックを用いて、英語でコミュニケーションをとる能力を修得するとともに、さらなる定着を図る。トピックに関する英語の構文及び語彙を学習し、授業内での会話や討論、さらに文章の読み書きに应用できるようにする。また、英語学習に活用できる学習法やテクニックを身につける。	
		ビジネスコミュニケーション 1	-	ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な 4 技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要スキルを修得する。	
		ビジネスコミュニケーション 2	-	ビジネスの場で使用される英語を学習する。会社という場面設定において、英語がどのように使われるかを学習し、ビジネス上のタスクを通して、ビジネスに関係する語彙、表現などを効果的に使えるように学ぶ。授業中のグループワークでスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの総合的な 4 技能に加え、プレゼンテーション、ディスカッション、インタビュー、ロールプレイなどでビジネスの場に必要スキルを修得する。タスクの内容は「ビジネスコミュニケーション 1」と異なる。	
		アカデミックリーディング 1	-	中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションを取る能力を修得することを目標とする。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。	
		アカデミックリーディング 2	-	中級レベルの英語で書かれた時事問題やさまざまな話題を読み、それについて英語でコミュニケーションをとる能力を修得することを目標とし、さらなる能力の定着を図る。文章を深く正しく理解し、その内容について話し合ったり、意見を交換したりできるようにする。リーディングに必要な学習法やスキルを身につける。	

		ライティングベーシックス	-	基礎的なライティングスキルを身につけることを目標とする。単語の品詞、基礎文法、文章の構成を実践的に学ぶ。ライティングに使用されるメカニックス（スペル、大文字・小文字、句読点、文法等）やフォーマットも修得する。	
		アカデミックプレゼンテーション	-	プレゼンテーションに必要な言語・非言語的スキルを学び、アカデミックな英語を用いたプレゼンテーションスキルを修得することを目指す。図や表を的確に説明する方法を学ぶ。また、効果的な発表原稿の作成方法を修得する。	
		STEMイングリッシュ	-	STEM (Science, Technology, Engineering, and Mathematics) 分野の英語を使って4技能（読む、書く、話す、聞く）を修得する。STEM分野での課題発見、解決の力を身につけることを目標とする。取り上げた課題について詳しく調べ、ディスカッションやプレゼンテーションを通して自分の意見や考えを英語で伝える力を修得する。	
		イングリッシュセミナー	-	地域社会で起こっている様々な問題を発見し、解決する方法を英語で学ぶ。取り上げた課題について詳しく調べ、グループワークやディスカッションを通して、自分の意見や考えを伝える力を修得する。外国人とのインタビューも実施する。	
		TOEIC 初級	-	TOEIC®Listening & Reading 受験のための基礎コースである。基礎的な文法と語彙の演習・課題を通して、テストの概要と構成を理解する。TOEIC®スコア伸長のための各自にあった学習方法を身につける。	
		TOEIC 中級	-	本学でイングリッシュトップピックス5（中級）から英語学習をスタートした学生や、就職・進学に向けてスコアアップを目指す学生を主対象とする応用コースである。各パートの得点をどのように上げるか、という攻略法を学び、演習・課題を実践していく。TOEIC®の得点をさらに上げたい人のための講義で、聞き取り、文法、読解のコツを体系的に学ぶ。	
		インテンシブイングリッシュ	-	海外にある本学の協力協定校において実施される短期集中プログラムである。参加学生は、協定校での講義と、英語圏での日常生活におけるコミュニケーションの実践を通して、英語能力を向上させることを目指す。グローバルに活躍する人材の育成を目的としており、具体的に次の達成目標を掲げている。①授業で学んだ英語を使用し、英語でのコミュニケーション能力を向上させる。②異分野・異文化背景を持つクラスメイトや現地学生達との関わりを通じて、協調性、リーダーシップ、異文化理解、多様性認識などのグローバルマインドを育む。③意思疎通が不十分であったり言語面および文化面において困難を伴う場合、それを補う方法を修得する。	
	英語・上級	English Academic Writing 1	-	外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集め、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに文章を書く方法を学ぶ。	
		English Academic Writing 2	-	外国籍、日本国籍を問わず、ネイティブスピーカーと同程度の英語能力をもつ学生を対象に開講する科目である。「English Academic Writing 1」を履修した学生を対象に、当該科目の学習範囲から発展した内容を学習する。学生自身が自らの専門分野に関連した論題を決め、情報を集め、概要の書き方、論文の構造、引用および参考文献の書き方を含む研究論文を書く能力を身に付ける。さらに、学生はアカデミックライティングに頻出する高度な語彙と文法構造も身に付ける。将来人工知能と共存する時代に研究者や技術者になることを見据え、人工知能やアプリを上手に使いながら剽窃や著作権を侵害せずに論文を書く方法を学ぶ。	
数理基礎科目		情報のための数学Ⅰ	-	微分法の考え方を理解し、積・商・合成関数の微分法や逆関数の微分法を修得する。さらに、求積法の概念を理解し、基本的な関数の積分について学ぶ。	
		情報のための数学Ⅱ	-	関数と逆関数について学び、関数の極限について学習する。また、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数の理解を深め、その計算に習熟することを目指す。	
		線形代数学	-	ベクトルの演算や行列の計算、連立1次方程式の解法、1次変換、行列式などの学習を通して、多次元の対象を代数的に扱える能力を養い、専門分野へ応用できる力を養う。	

	情報数理A	-	先ず数列の諸性質や極限の概念を学び、微積分学の準備を行う。次に、微分係数や導関数の概念を理解し、合成関数の微分法を習熟することにより関数の変化を調べることができることを学ぶ。さらに、微分の逆演算としての不定積分および和の極限としての定積分を理解し、置換積分法や部分積分法などの手法を習得するとともに面積計算等の応用にも取り組む。また、表計算ソフトExcelを用いた数理の解析も体験する。	
	データサイエンス物理	-	身の回りの自然現象の理解に物理が使われていることを学び、物理を用いて考えることができる論理的思考力を養成する。また、実際の測定データを解析して解釈し、帰納的に未知の事象を推論する力を養う。ベクトル、微分積分を用いて、運動の記述、質点や剛体の運動方程式、仕事やエネルギーなど、物理学の基礎を学ぶ。また、学んだ知識を応用し、論理的思考とデータ解析を通して、自然現象の背景にある物理を洞察する能力を養成することを目標とする。	
	アドバンスト数理A	-	多変数関数微積分学における偏微分と重積分について学ぶ。偏微分については、第1次、第2次偏導関数を求めることと、合成関数の偏導関数を求めることについて学習する。さらにその応用として、2変数関数の極値問題について学習する。重積分については、累次積分による計算方法を学び、さらに変数変換を用いた効果的な計算法を習得していろいろな重積分が計算できるようにする。	
	アドバンスト数理B	-	1階の常微分方程式、2階の定数係数線形微分方程式および連立微分方程式の解法について学習し、現象の数学モデルを構成する方法、具体的な解法と幾何学的な考え方、解の性質や特徴を分析する方法を理解する。また、技術計算言語MATLABを利用したコンピューティング・プロジェクトを実施し、現実的な諸問題に対する応用経験を得る。	
	技術者ための統計	-	工学において偶然性を伴う現象を解析する場合に必要な統計的な処理について学習する。観察や実験で得られたデータの整理を通じて、確率変数や確率分布の概念を理解する。また、代表的な確率分布である正規分布、カイ二乗分布、t分布、F分布の数表の使用に習熟する。さらに、母集団や標本分布について学び、それらを用いて母数の推定・検定ができるようになる。	
	AI基礎	-	AI (Artificial Intelligence) に関する、基本的機能や活用例を、アクティブラーニングをとおして体験し、最先端技術について、さまざまな基本的実例を通して学ぶ。サイエンス・テクノロジーの新しいパラダイムに対応できる素地を涵養するため、AIの歴史、AI独自の画像認識、文章カテゴリー化と自然言語処理、対話型音声識別などの基本的内容を理解し、基本的操作ができるようになる。さらに、機械学習（深層学習）に必要な初等的なデータ構成ができるようになる。	
	データサイエンス基礎Ⅰ	-	データサイエンスの非常に大きな部分を占めるデータ解析に関して、最も基本的な手法であるデータ集計の各種の手法および回帰分析の二つを身に付けることを目指す。データ集計と回帰分析を理解して実践できるようになり、実際のデータ活用を行えるようになることが目標である。	
	データサイエンス基礎Ⅱ	-	データサイエンスに関連して広く用いられているクラスター分析、決定木分析、（人工）ニューラルネットワークの三つの手法を身に付けることを目指す。データを用いた分類や予測を理解して実践できるようになることが目標である。	
基礎プロジェクト科目	プロジェクトデザイン入門（実験）	-	実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。各学生が所属する学科の特徴的な対象や現象を実験テーマとして、現象に関わるデータを収集→整理→分析→仮説→視覚化→報告に要する「データ取り扱いスキル」の基本を学習する。さらに、学習した実験知識・技能を活用し、問題発見から解決にいたるプロセスおよびデータに基づく検証活動の基本スキルを学習する。	
	プロジェクトデザインⅠ	-	実社会における様々な問題に取り組むためのスキルや考え方を学ぶことを目的とする。その基本的なプロセスは、実生活や実社会の中に存在する問題に気づき、データに基づいて現状を把握し、原因を分析したうえで、解決策を見出し、第三者にわかりやすく伝えるものである。自身が当事者もしくは関係者となる身近な問題の解決に向けてチームで取り組み、論理的な思考に基づいた問題解決を行う。	

リベラル アーツ 系科目	文理 横断	プロジェクトデザインⅡ	-	実社会における他者の問題の解決に向けて、必要な知識・経験・情報を収集し、個人またはチームでそれらを統合して、チームで組織的にプロジェクト活動を行う。メインテーマによりその流れは異なるが、先行科目のプロジェクトデザインⅠで習得した基本スキルをもとに「問題発見→現状把握→課題決定→解決案の決定」の各段階において、より深いプロジェクト活動を効率的に行う。活動を通して、解が多様な課題を探索し、論理的かつ創造的に解決する力を身につける。	
		プロジェクトデザイン実践 (実験)	-	プロジェクトデザイン入門・Ⅰ・Ⅱで修得した知識や技術をもとに、問題解決を目指すべく提案した解決案またはその特定部分の有効性を検証する。プロジェクトデザイン入門よりもさらに専門的な知識や技術を駆使し、対象や現象を定量的あるいは定性的に捉え、その特徴・特性・法則性について明らかにする。その過程で、検証活動の進め方および検証に必要なスキルをより深く学習する。	
		I C T 入門	-	パーソナルコンピュータ(パソコン)の仕組みとその能力・可能性を理解する。その上でパソコンを教育・研究・技術開発など、学生として、また社会人となって、活用するための基礎的能力を修得する。特に、文書作成やプレゼンテーション資料作成の伝える力を修得する。	
		データサイエンス入門	-	データの取扱いの基本を学ぶ。データ取扱いの入門ツールである表計算ソフトExcelの基本操作を学ぶ。そして、Excelを使用して、実験データやアンケートデータの集計・分析など、データの取扱いスキルを学ぶ。また、Excelを使用して、社会の実際のデータ(オープンデータ)を可視化することにより、データがもつ意味を理解し、データを集計・分析する力を身につける。	
	文 理 横 断	日本文学の世界	-	日本文学作品の読解を通じて鑑賞する能力を高めて心情を豊かにし、国語表現(特に手紙文や敬語)について学習して、文書による表現力を伸ばすことを目標とする。作品としては、韻文・説話・物語・随筆・軍記などの優れた古典文学作品に加え、明治時代以降の小説等を扱う。	
		人間と哲学	-	知性・独創性を養うために、哲学者の思想に触れて、その内容を理解する力を身につける。またそれをもとに自ら考える力を身につける。さらに、哲学的思考を他者と討論することによって、自らの考えを持つと同時に、他者の考えを理解し、他者とともに考えることを実践し、批判的思考力を養う。これらを通して、人間力を備えた、自ら考え行動する技術者になるために必要な思考力を涵養する。	
		法と社会	-	知的財産権や製造物責任など、技術者にとって必要な法知識を習得し、それを踏まえて、毎日報道される様々な事件について問題点を指摘し、論理的に考察して、自らの考えを明確に説明できるようになることを目的とする。	
		経済と社会	-	多様で複雑な現代において、人間の生活に大きく関わっている経済と、経済の主体の一つである会社について、機能や役割などの理解を深めることを目標とする。以上から経済の基礎的な知識、ならびに経済において大きな役割を担う会社について、制度や法律、社会への対応といったことの基礎的な知識を学ぶ。	
		こころのはたらき	-	自他の行動を心理学的な視点から考察し、人間に対する洞察力を涵養すること、人の心に関する講義や討議で得た知識やスキルをもとに、自己成長につなげることを目標とする。	
		グローバル社会(ヨーロッパ)	-	「書物」をテーマとして日欧交流の歴史を学び、グローバルな視野を獲得することを目指す。さらに、今日のグローバル社会において、今後どのように国際交流を深めてゆくべきか、他者と意見交換を重ねながら、自らの考えを深め、国際社会へ出て行く力をつちかうことを目標とする。	
		グローバル社会(アジア)	-	アジア圏の外国文化を総体的に理解し、これを基に他文化に対する受け入れと理解することによって文化間の疎通の機会を提供するとともに究極的には人類が共に生きていく共存共栄の道を模索する。また、文化学習を達成するために衣食住など伝統文化、大衆文化、遊び、観光を中心とした余暇文化、ライフスタイルなどを比較しながら相互理解した上で、意思疎通能力を培うことが目的である。	
		芸術へのアプローチ	-	知性と教養・感性と徳性および技術者としての倫理観の涵養を図るために古今東西の造形芸術、特に絵画・工芸作品を通してそれぞれの持つ時代性や地域性を具体的に考察する。構図や色彩などの造形上の工夫を読み取ろうとする姿勢を通して、作品の底流にある作者の精神活動に思いを至らせる。さらに、その精神活動の基底に触れることによって、先人の生きることへの真摯な姿勢を理解する。	

科学技術と社会	-	科学と技術の関係、科学・技術と社会との関係などについて歴史的観点から検討する。科学の成果や技術的な解決が社会や環境に与える影響や、科学技術と社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、理解を深めることを通して、今日の科学者・技術者は社会を支える営みに携わる当事者であるという視点を確立し、自身の見解を論じられるようになることを目指す。	
技術者のためのコミュニケーション	-	技術者が仕事を進めるために必要となる、自分の考えていることを論理的にまとめ、明確に文章や口頭で他人に伝える力、同時に相手の言っている内容を正しく聴き、理解する力、さらにチーム内で信頼関係を築き、相乗効果を生むようなコミュニケーションを図る力を体得する。	
国際関係論	-	現代の国際政治・国際社会について「今起きていること」を中心に説明する。領土問題、人種・政治思想などによる社会の分断、日米同盟の抑止力強化、経済安全保障などについて理解を深めるため、映像資料や政府資料、報道記事を活用。授業の最後にはグループに分かれて班別討議を行い、その結果を発表。討議テーマは講義時に指示する。発表後は全体討議を行い講師より講評を行う。	
危機管理論	-	21世紀の日本を担う学生たちに危機管理の重要性を理解させ、危機に的確に対応できる人材を育成する。多様な危機の原因究明とその予防や被害最小に向けた態勢構築については、今後、ますます複雑化・混迷化する予測のもと、学生の自己啓発、自己研鑽に資することを目標とした授業を行う。	
日本国憲法	-	日本国憲法を通じて、日本はどのような国家なのかを理解し、どのような国家であるべきか、日本人としていかに行動すべきかを考えられるようになることを本講義の目的とする。また、教員試験や公務員試験を志す学生は、受験に不可欠な憲法の知識を習得する。	
韓国語入門	-	韓国語を初めて学ぶ受講生を対象に、一貫した授業計画に基づいて韓国語に関する基礎知識と運用力を養成する。初心者にとってハングル文字は音楽の楽譜のようなものなので、文字や発音についての基礎を学習する。文法の学習は最小限に止め、「読む」「書く」「聞く」「話す」の四機能をバランスよく総合的に身につけることを目指す。また、韓国語の世界が身近になるよう、視聴覚メディアなどを通じて、文化・風俗・歴史・社会の事情についても学び、国際的視野を広げる一歩とする。	
企業の組織と戦略	-	企業活動の事例学習を通じて、「会社」「企業」と我々の生活との関わりや商品やサービスの提供といった企業活動の実態、経営資源と企業活動、企業間の競争と経営戦略に関する理解を深める。更に事業の多角化、企業活動の国際化、企業の組織についても理解する。また、「自ら考え行動する技術者」を目指し、自ら調べた内容に基づいて多面的に考察する力と、その結果を第三者に論理的に伝える力を養う。	
A I プログラミング入門	-	AIに関連する技術を扱う際に必須となっているプログラミング言語 Pythonの基本的な内容について学ぶ。具合的には、変数、関数、制御文、繰り返し文などの基本的な内容に加えて、リスト、コンテナの処理、イテレータ、モジュールの利用などについて学ぶ。処理概要が与えられたら、入力、処理、出力を整理して、Python言語のプログラムを作成し、動作に問題があれば修正できる能力と、他者が書いたプログラムの処理内容を理解し説明できる能力を養う。	
A I 応用 I	-	人工知能の中心技術である深層学習(ディープラーニング)の基礎、画像認識分野で幅広く活用されている畳み込みニューラルネットワークや時系列データを処理するためのリカレントニューラルネットワークの仕組みと活用法などを実践的に学び、知能システムの実現に向けて重要な技術となる深層学習やその応用システムについての理解を深める。	
A I 応用 II	-	人工知能の最も中心となる自然言語処理に関する基礎的な技術をマスターし、特に、文解析、情報検索、文書分類、対話システムなどの応用システムに関する理解を深めることを目的とする。	
ビジネスデータサイエンス	-	データ分析に関する基本的な概念や手法を学ぶとともに、データ解析の基本的な手法を習得して、実際にデータ活用を行えるようになることを目指す。	
データサイエンス応用	-	典型的な機械学習の問題である回帰問題、分類問題、次元削減、クラスタリングの諸問題を、Python の機械学習ライブラリである scikit-learn を用いて適切に分析できる実践的なスキルを身につけることを目指す。	

I o T 基礎	-	IoTシステムを構成する基本技術について体系的に学びながら、どのような現場でIoTを活用できるかについて、IoTシステム構成と構築技術（IoTシステムアーキテクチャ、IoTサービスプラットフォーム）、センサ／アクチュエータ技術と通信方式（IoTデバイス、ネットワーク、LPWA、プロトコル）、そして、IoTデータ活用技術（ビッグデータ分析技術、活用事例）やIoT情報セキュリティ対策技術（脅威と脆弱性、セキュリティ対策技術、情報セキュリティの標準と法制度）、IoTシステムのプロトタイピング技術（プロトタイピング活用）を学ぶ。本科目の履修により、IoTシステム技術検定試験の「基礎」から「中級」を合格できるレベルの知識を習得することを目標とする。	
I o Tプロトタイピング	-	IoTシステムを構築するためのマイコンを用いたプロトタイピング手法を学ぶ。プロトタイピングの考え方やプロセスやIoTシステム構築に必要な基本知識としてマイコンを用いたセンサやアクチュエータの利用方法、ネットワークの利用方を理解する。そして、個人およびチームでIoTシステムの提案とプロトタイプを作成する。	
I o Tプログラミング入門	-	マイコンを動作させながらコーディング技術を学ぶ（C言語）。具体的には、変数、演算子、条件文、繰り返し文、関数、I/Oポート、A/D変換、PWM、UART通信を利用して、センサ、LED、モータなどを使ってアイデアを実現させるコードを作ることを目指す。	
ドローンプログラミング	-	Pythonを使って、小型ドローン（DJI-Tello）をプログラミング制御する方法を学び、DJI社が公開している仕様に従ってTelloとUDP通信し、機体制御及び機体情報の取得を行うマルチスレッドプログラムを作成する。開発環境は、オペレーティングシステム：Linux。言語はPython3（使用モジュールは主に socket、threading、opencv、pygame、pyqtgraph）である。	
I o T応用	-	IoTを実現するために必要なハードウェアとセンサーを使った基礎的なシステム構築の手法を実践的に学ぶ。マイコン（ラズベリーパイ）と各種センサーを用いて、センサーの値をネットワーク経由でクラウドへ収集・蓄積する手法や、クラウド側の蓄積データを解析してモータや小型LEDディスプレイなどのデバイスからデータを出力する手法を学ぶ。C言語またはPython言語でプログラミングする。	
ロボティクス基礎	-	基本的なロボットの制御手法について、実システムのロボットカーを制御対象とし実践的に学ぶ。具体的には、レゴマインドストームとリアルタイムOSを使ったロボット制御プログラミングについて理解を深め、様々なセンサの値をフィードバックしてロボットを操作する方法を学ぶ。また、PID制御などの制御理論の基礎知識についても学ぶ。レゴマインドストームEV3とリアルタイムOSTOPPERS/EV3RTを使ってロボット制御を行い、ライントレースカーの製作・プログラミングを行う。	
情報ネットワーク基礎	-	現在のインターネットを支えるプロトコル群であるTCP/IP、また関連する様々な通信技術の知識と理論を学習する。このことにより、LANやWANなどのコンピュータネットワーク、さらにはWWWがどのようなものであるのかを理解し、ネットワーク運用に関する基礎的なスキルを身に付ける事を目標とする。	
ネットワークセキュリティ	-	TCP/IPを理解していることを前提とし、近年その重要性が高まりつつあるネットワークのセキュリティに関する知識と技術について学ぶ。具体的には、DoS攻撃やSQLインジェクションのようなさまざまなネットワークの攻撃手法とそれに対する対策技術を実践的に学ぶ。また基礎的な暗号理論とその実装についても学ぶ。	
グローバルP D	-	専門分野・国籍・文化的背景の異なる者が、共通の目的達成に向けて協働し、現実社会における問題発見・解決に取り組む。活動では論理的な思考に基づき現実社会の問題を発見し、制約条件下における解決案を創出する。また、創出した解決案をプロトタイプ（モックアップ）や資料として具現化し、関係者と共に解決案を改善・改良する能力を得る。	
未来学	-	私たちにあって望ましい未来社会の姿を考えることができる力、現在の状況から予測される将来の自然的かつ社会的な変化を洞察できる力を養うことを目的とする。Futures wheel、バックキャストリング、シナリオ・プランニングなどの概念やスキルを理解し、ディスカッションを通して、望ましい未来社会の姿を見据え、私たちのとるべき行動について考察する。	
コンセプチュアル思考	-	物事や問題の本質を捉え、多角的な視点から解決策を考えることができる思考法を身につけることを目的とする。問題の中に潜在する見えないものを洞察し、その価値を判断して全体を概念化しながら思考や行動ができるための方法論を学ぶ。また、ロジカルシンキング、デザインシンキングなどの思考法との違いを理解し、他の思考法と融合して活用できる思考力を養う。	

教職に関する科目	感性とデザイン	-	人々の共感を生み、感動を与えるデザインやものづくりに必要となる基礎知識を修得することを目的とする。人間の情動知能、感性、感情がどのようなものかを理解するとともに、良いデザインやサービスがもつ、こだわり、コンセプト、ストーリーを含むデザインが、どのような形で可視化されているか理解する。また、見えないものに気がつく直観力、感性にもとづく理解力や認識力を養う。	
	サステナブルイノベーション	-	社会情勢や自然環境が大きく変化する現代において、持続可能な未来社会を実現するために必要な、新たな価値を生み出すための基礎力を養うことを目的とする。これまでのモノづくり、コトづくりの歴史に学び、社会や私たちの生活に真に役立つ持続可能なイノベーションに求められる考え方を理解し、価値創出フォーラムを通して精度を高める。	
	科学技術と人・社会	-	科学と技術の関係、科学・技術と人及び社会の関係などについて歴史的観点から理解することを目的とする。科学の成果や技術的な解決が人や社会、そして環境に与える影響や、科学技術と人・社会とが互いに影響しあう中で生じるさまざまな問題について考察し、ディスカッションしながら意見を交わし理解を深める。	
	教育原理	-	教育の原理的考察を通して、自分なりの教育観を持つことを目標とする。そのために、教育理論を踏まえて、実際に行われている学校教育・家庭教育・社会教育の課題を明確にし、これからの教育について考えることのできる基礎的能力を養うことを目的とし、講義とディスカッションを組み合わせ学習する。ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。	
	教師入門セミナー	-	教育と教職の意義、教職に就くまでのプロセス、教師の仕事や教師の実践的指導力について学び、さらに今日の臨床教育について理解する。講話や受講生どうしの討議により、今後求められる教師の役割や在り方について考察することを通して、教職課程で何を学ぶのかについて理解する。これらの学習活動により、受講生各自が自己の教師を目指す者としての適性について熟考し、また教職課程における目標を持ち、真摯に教師を目指して学んでいく態度を涵養することを目指す。	
	教職概論	-	教職の意義、役割、教員の職務内容について学ぶ。教職科目で学んだことを総合的に捉えなおしながら、これからの学校教育における教師の在り方および教職の意義について理解を深め、教育現場で生きて働く実践的指導力を培う。さらに教育実習後は、進路選択の基礎知識をふまえて、教育実習を振り返ることにより、自身の教師としての適性を判断し、進路選択の準備を行う。教職観の確立、教師としての実践的指導力を育成するために、以下の内容で授業を進める。なお、ディスカッションでは、指定されたテーマについて各グループで議論を行い、その概要をワークシートに整理する。	
	教育制度論	-	学校教育におけるさまざまな取り組みの背景には教育制度がある。したがって教育をスムーズに行うためには、その背景にある教育制度を理解することが重要である。学校教育に関する社会的・制度的・経営的な事項に関する基礎知識とその課題に関して考えることを目的とする。加えて、現在の学校で重要な学校と地域との連携・協働と安全の保障についての基礎知識の獲得を目指す。有意義な教育を支える制度とはどうあるべきなのかを、具体的な事例のなかでの活用についても考察する。	
	教育心理学	-	学校現場で中学校及び高等学校の生徒に対して有効な教育実践を行うために必要な教育心理学の基礎について理解することを目標とし、具体的には、発達・学習・適応、及び教育評価の教育心理学の四領域を概観し、青年期までの各発達段階に関する理解及び発達障害に関する理解と支援の方法について学習する。可能な限り具体的な事例をあげながら、専門的な内容も含めて講義する。	
	学習・発達論	-	学習と発達の理論、発達障害に関する基礎事項を理解し、有効な教育実践を行うためには、生徒の理解の仕組みや心理的狀態を的確に把握できるようになる必要がある。最終的には学習心理学と発達心理学の視点から、有効な教育実践を行う教育者になるために必要な観察眼と考え方を養い、自分なりの教育観を確立することを目標とする。学習心理学と発達心理学に関する教育実践場面への適用を考慮し、教員になったときに生徒たちに学習心理学と発達心理学の知見をいかに活用するのかについて講義とグループ討議を行い考察する。	

特別支援教育概論	-	現在および今後の教育で特に重視されているもののひとつに、何らかの「障害」を持つ生徒への支援がある。特別支援教育は、特定の生徒の成長に寄与するだけでなく、すべての生徒にとっても有意義なものである。本科目では、特別支援教育に関する基礎的な事項の理解を目指し、その方法について考察する。 現在の学校教育において大きな意義を持つ特別支援教育について、教師となる上で必要な知識を示し、教師に求められる「障害」に対する適した見方を身に付ける。	
教育課程論	-	教育課程とは、学校教育の内容や方法の在り方を定めたものであり、それは学校教育の基調に直接的に関わりをもっている。教育課程の内外での歴史的変遷や編成原理を押さえつつ、これからの学校教育における教育課程のあり方について考察する。 新学習指導要領を中心として、今日の教育課程改革の動向を明らかにする。次に、内外の教育課程改革の歴史を捉え、教育課程の編成原理をめぐる諸課題について検討を行う。それらを踏まえて、これからの学校教育における教育課程のあり方について探究する。	
道徳教育の理論と実践	-	道徳教育の本質を理解し、道徳教育の歴史的経緯及び道徳科の意義や目標について説明することができる。また、子どもの発達段階や道徳性の発達を考慮し、道徳教材や指導法に生かすことを通して、指導計画や学習指導案を作成することができる。 さらに、学校の全教育活動を通して行われる道徳教育と「特別の教科道徳」において行われる道徳授業との関係を明らかにするとともに「考え、議論する」道徳授業の実践に必要な知識、指導技術の基礎的能力を養う。	
総合的な学習の時間の指導法	-	教育課程における「総合的な学習（探究）の時間」の意義や役割を理解し、教育実践例から各学校のテーマおよび学習内容の意図等に気づき説明することができるようにする。 また、指導計画の作成を通して、横断的・総合的な学習の効果について考察するとともに、実践のための基本的指導力を身に付ける。さらに、指導方法と評価の考え方や配慮事項について理解し説明することができるようにする。指導計画作成の際の考え方、単元計画の重要性などについて理解を深め、教師の指導力を身に付ける。 児童生徒が課題解決学習を通して、生き方を考えていく上で必要とされる資質・能力を育成するための具体的指導法および評価についての知識・技能を身に付ける。	
特別活動の指導法	-	さまざまな子どもの問題行動が顕在化してきている今日の状況において、教育課程の一領域である特別活動への期待は高まっている。特別活動では「望ましい集団活動」がキーワードとなり、とりわけ学級活動・ホームルーム活動が重視されている。 特別活動の歴史的変遷や理論の動向を踏まえながら、その教育的意義について考察していく。クラブ活動・部活動および学級活動・ホームルーム活動を行う上での教師の指導性についても検討していく。	
教育方法・技術論（情報通信技術の活用を含む）	-	「授業」は、教授と学習の統一された過程として捉えられる。このような「授業」を成立させるためには、何をどのように教えるかということが問題となり、教師には教材分析を行う力や学習指導案を作成する力、さらに情報機器やメディア、教材を活用していくことが求められてくる。また、「授業」の後には授業分析や評価が必要であり、それらによって次の「授業」に向けた改善が可能となる。本授業では、学校教育の中心である「授業」を主たる対象として、よりよい「授業」を行うための方法や技術を習得することを目標とする。	
生徒・進路指導論	-	我が国における教育改革の動向を見据えて、生徒・進路指導の諸原理を学び、特に中学校と高等学校に焦点を当て、その目的と意義について考える。さらに、現在の学校教育が抱えている生徒指導と進路指導に関する具体的な問題を知り、これからの生徒・進路指導の在り方について考察する。また、実践に際する配慮事項及び学習、支援活動の具体的指導方法などについて、ディスカッション、ロールプレイング等を取り入れ理解を深める。	
教育相談	-	教育現場で見られる心理的諸問題（生徒・保護者との関わり方、いじめ、不登校、学校不適応、発達障害等）を取りあげる。受講者が児童・青年期の心理的特徴、生徒との対人関係を深める方法、保護者との関わり方など、教師になるにあたり学んでおくべきと思われるテーマについて、集団討議・発表など実践的な方法も取り入れながら理解を深めていく。小学・中学・高校時代を振り返った上で、教師の立場になったという想定で児童・生徒にとって何が必要かを考える機会となるように、模擬面接を交えたグループ討議を実施する。	

教育実習（事前・事後指導）	-	教育実習を行う目的は、学校に体験的に勤務し、自分の教師としての適性を確認するとともに、目指すべき教師像を明確にするために行うことである。この目標を達成するためには、事前の準備として、学校での教師の仕事に関する理解を行った上で、実習生としての心構えを身につけ、実習における目標を持つことが必要である。また、教育実習の事後には、学校での体験を振り返ることによって、教育実習の目標について振り返る。さらにこれらの学習活動を通して、自らが理想とする教師になるための今後の課題を考える契機とする。	
教育実習Ⅰ	-	教育実習においては、大学で学んだ一般教養・専門教養・教職教養などを学校現場において総合的に生かし、授業実習を通して生徒理解を深めるとともに、学校運営や教員の職務実態に触れて望ましい教師像を形成する。 実習校の管理職教員から説明される学校の職務全般について理解し、学校や授業の様子を詳細に観察することが重要である。また、生徒と積極的に関わる態度も必要である。実習では授業実習（教壇実習）が中心となる。さらに、生徒指導や進路指導、課外活動の指導を行う。職務を遂行しながら、教科指導、生徒指導、進路指導など実習で行った職務全般について省察と総括を行う。特に教科指導においては、実習中の総括として研究授業が実施され、実習校の教員からの講評を受ける。	
教職実践演習（中学校及び高等学校）	-	演習や現職教員の指導を受け、教職教養・一般教養・専門教養などの「専門職的知識」と教科指導や学級経営などを通して得られた「専門的実践力」を統合し、使命感や責任感、及び教育的愛情に裏打ちされた専門的指導力を高めることを目指す。また、履修カルテを用いた個別指導を行うことにより、各受講生に教員としての資質・能力、適性について自己評価を通して指導助言にあたり、一人一人のキャリア形成を支援する。最終的には、教師に最小限必要とされる資質・能力の確認を行う。	
情報科教育法	-	今日の高等学校では、教科のひとつとして「情報」が位置づけられており、その位置づけは、教育課程全体においても重要なものとなっている。教師には、コンピュータをめぐるさまざまな知識や技能が必要となることはもちろんのこと、生徒がこれらを効率的かつ適切に習得するための実践的指導力を身につけることが求められる。「情報」を教える教師としての基礎的な知識を習得し、さらに実際に高等学校での授業運営を適切に行うことができるようになるための実践的指導力を身につけることを目標とする。	

授 業 科 目 の 概 要				
（情報デザイン学部 環境デザイン創成学科）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 科目	情報デザイン学キャリアデザイン（環境デザイン創成）	○	情報デザイン学部の経営情報学科と環境デザイン創成学科における学びの分野、さらに各学科において4年間のうちに学ぶカリキュラムの概要を理解する。本科目では、学生どうしでの討論や卒業生・社会人との議論等を行う。これらの経験を介して、修学する意義を自ら考え、能動的に探究する学習姿勢を身につけて、自らの将来目標を実現するための長期的なキャリアデザイン、およびそのキャリアデザインの第一歩となる在学中の修学計画を立てることができる能力を身につけることを目標とする。	
	Webデザイン	○	ウェブページ制作の基礎知識及び基本技能を身につけることを目指す。インターネットとワールドワイドウェブの概要を理解して、企画立案、設計・制作、運用・管理などのウェブサイト制作の手順全体を理解するとともに、ウェブページを表現するための記述法であるマークアップ言語（タグ付け言語）の基礎的な文法と、デザインやレイアウトなどの見栄えや体裁を表現するスタイルシートの使い方を学ぶ。さらに、ウェブサイトにおける情報の効果的な表現、使い易さ、誰にでも使えることなどにも配慮し、ウェブページを通じたコミュニケーションを効果的に行うために考慮すべき事項についても学ぶ。	
	経営学入門	○	達成したい理念と社会の関係、理念を達成するために必要な組織作り、理念を展開する経営戦略、金融、会計およびマーケティングに関する経営に関する基礎的な用語や概念について学ぶ。理念、社会、事業、顧客、組織、戦略、金融、会計及びマーケティングの基本用語・概念について理解して、それらの概念を用いて、社会課題と企業などの組織活動についての最近の動向について理解して説明ができるようになることを目標とする。	
	データアナリティクス入門	○	様々な分野で必要となりつつあるデータ分析に関して、データの収集、データの集計、データの視覚化などデータの取り扱いの基本的な手法を学ぶとともに、統計学の基礎的な用語である平均、分散、サンプリング、標準化、相関などを具体的に理解する。特に、データの収集に関しては、社会調査で最も用いられているアンケート調査に関して学び、実際に簡易なアンケート調査を実施する。この他にも公的機関が公表しているオープンデータなどを用いて、現状の把握や課題の探求を行うためのデータ分析の基礎能力を身につけることを目指す。	
	社会調査法	○	社会調査法は現場の観察・関係者へのインタビューあるいは文書から社会データを取得して分析する手法である。社会調査法で取得する情報は、社会に山積する諸問題を深掘りし、それらを解消するためにやるべきこと「課題」を明確にするためには欠かせない。本科目では、具体的には、「社会調査の意義」「調査・分析の進め方」を学ぶ。分析では、確率・統計の基礎から検定、クロス分析、回帰分析にも触れ、社会調査の考え方や分析結果の読み方について理解を深めるとともに、地域再生の課題を明らかにすることに取り組む、社会調査法を実践的に学ぶ。	
	グラフィック・コミュニケーション	○	アイデアの視覚化、メッセージを伝えるコミュニケーションツールとして有効なスケッチスキル、グラフィックを学ぶ。これらを自由に表現するための論理的フリーハンド描画技法を学ぶ。また、習得したスキルを活かし、感性表現・伝達における実践的スキルへの変換を目指す。クロッキー、ドローイング、デッサンなどについての理解を深め、技法の習得、活用方法を学ぶ。発想には、具象物（モノ）と現象・反応（コト）の2種類があり、それぞれに表現目的・方法が異なるため、具体的な活用を意識し、有効性を理解する。	
	グローバル開発論	○	従来の国際開発からグローバル開発への発展の在り方を学ぶとともにその意義を考える。グローバル開発のための国際協力の在り方も多様化しており、日常生活においても、国内外での協力を携わることが多くなっている。必ずしも開発援助機関、国際機関やNGOでなくとも、関わるができるような社会となっている。そのことから、本科目では、様々な関わり方が可能となっていること、それらのことについて理解を深めること、そして自ら考えて行動し、利他主義を理解・実践し、国際協力ひいてはグローバル開発に貢献できるようにになれる人材の育成を目指す。	
	コミュニケーション・デザイン入門	○	現場に即した実現性のある情報を確実に得るためのコミュニケーションの場がつくり、收取した情報に基づき具体化に即した実現性のあるアイデアを自ら再構築して、さらにそれを第三者に的確に伝えたりする基礎能力を身につけることを目指す。円滑な観察を実施するためのコミュニケーションの場を創出するためにはどうしたらよいか、観察に基づいて仮説を立てたアイデアをどのように検証したらよいかなどに関して学ぶ。	
	プログラミング基礎	-	コンピュータプログラミングの基礎的な能力を身につけるために、プログラミングの全体を俯瞰的に把握することを目指す。具体的には、データ・情報量の単位であるデータ表現、型・変数・演算、逐次処理・条件分岐・繰り返し、関数、オブジェクトの基本的な用語や使い方の基礎を理解して、コーディングする・実行する・デバッグする三段階から構成されるプログラミングの基本を習得する。プログラミング言語には組み込み分野からサーバまであらゆる用途に最も広く用いられているJavascript言語を用いる。	

イノベーション・デザイン	○	イノベーションの創出方法について学ぶ。本学は世界を代表するイノベーション機関であるSRI（旧スタンフォード研究所）とパートナーシップを構築している。SRIは、パソコンのマウスやGUI、iPhoneのSiri等を開発した機関であり、世界の変革を先導してきた。SRIではこうしたイノベティブな取組を生み出すための手法論として、NABCというフレームワークや価値創出フォーラムといったフィードバック手法を考案し活用している。本授業では、こうした手法を身に付けることで、プロジェクトデザインや専門研究に活用できるようにすることを目指す。	
カーボンニュートラル概論	○	環境省の認定制度である脱炭素アドバイザーベーシックの認定を取ることを目指し、基礎知識を身につける。主要先進国では2050年を達成年度としてカーボンニュートラルを実現するための取り組みが進んでおり、わが国においても、金融機関やメーカーをはじめとし、全ての企業が取り組みを進めていく必要があることから、各企業で気候変動対策に関する知識を有した人材が求められるようになっている。GX検定ベーシック等の既に認定を受けている民間資格の内容を学ぶことで、事業会社や金融機関の企画関連部署に必要な基礎知識を身につけることを目指す。	
コミュニケーション・デザイン実践	○	サイエンスカフェや哲学対話など、「対話の場」と呼ばれるさまざまなイベントが実施されている。これらの実践においては、対話的なコミュニケーションを促進することによって、多種多様なステークホルダーをつなぐ、対話の場の創造力が求められている。本授業では、この技能を身につけてもらうべく、哲学対話をモデルとした対話の場を体験してもらう。これを通して、問いの共有の仕方や意見のまとめ方、自分の意見をひとに伝える方法などを学んでもらい、対話の場を自ら作り出す姿勢を身につける。	
経営分析とESG	○	組織の経営活動を評価するための分析手法を学ぶ。具体的には、財務諸表の基本的な構造を理解すると共に、複数の財務分析指標を基に企業を多面的に分析できる能力の養成を目指す。また近年、気候変動問題に対処するための脱炭素社会への移行などが求められる中で、企業の財務的な側面だけでなく、環境・社会・ガバナンス（ESG）への取り組みも重要視されるようになってきている。本科目では、ESGの取り組み状況など非財務情報が重要視され始めた経緯や活用状況について学ぶ。また、環境評価の考え方等についても理解を深める。	
ランドスケープ入門	○	ランドスケープとは、自然環境とさまざまな人間の活動の総体として現れる地域の環境や景観を表す言葉である。この授業では、ランドスケープの視点から地域を捉えるための、生態学やランドスケープエコロジーの基礎、これを保全・育成するための生態系管理、ランドスケープデザイン、緑化学の技術について幅広く学び、自然と共生する社会をデザインするための基礎的な能力を培う。授業では、一部、大学キャンパスや公園、里地・里山、河川など、身近な環境を対象とする。	
マーケティング基礎	-	マーケティング論の基礎となる、マーケティングの基本概念と戦略の関係、マーケティングリサーチ、マーケティングのビジネス・フレームワークの代表である4P（製品、価格、流通、販売促進）の要点、ブランドの形成について学んで理解することを目指す。	
ウェルビーイングシティ政策デザイン	○	地方創生に関する考え方の基本的な背景や流れを学ぶとともに、地域幸福度（Well-Being）指標を用いた地域の分析方法の習得を目指す。これまで地方創生は日本全体で起こっている人口減の流れを食い止めるための取り組みを重視してきたが、現在は方針を大きく変え、居住人口や働き手が少なくなることを事実として受け入れたうえで、それでも人々が幸せに暮らしていくために必要な社会サービスが受けられることを目指した新たな仕組みづくりを重視し始めている。そこで、地域幸福度指標を用いた地域の分析を行うとともに、地域ごとに存在する弱みを補い、強みを更に魅力的なものとするための政策をデザインする能力を身につけることを目指す。	
3次元コンピュータグラフィックス入門	○	3次元コンピュータグラフィックスの基本から始め、モデリング、アニメーション、VR映像制作などのスキルを向上させつつ、地形モデリングや防災ハザードマップの応用に焦点を当てる。3DCGを用いてリアルな映像を制作し、VR技術を活用して新たな視覚体験を創造するスキルを習得する。	
共生社会デザイン概論	○	これまで社会的に排除されてきた人々が社会参画できるようにすることを目指し、障害、性別、年齢、社会的属性等にかかわらず多様な人々が分け隔てなく暮らしていくことができるためのアプローチを学ばせる。共生社会を目指す中で、多様な生活観、価値観を認めていくことは重要である。共生社会論のターゲットとしては社会的弱者で社会的マイノリティーである人々（貧困者層、ホームレス、高齢者、子ども、ジェンダーやLGBT、異文化社会出身者、少数民族や先住民族など）が想定される。中でも障害者に関する取り組みを中心な学びとする。	
異文化理解・コミュニケーション	○	文化が異なる人たちの考え方を理解し、コミュニケーションが取れる人材になることは、国際化の進む現代では必須のスキルである。本授業ではまず異文化理解として、地球規模の課題の背景となる文化・環境・歴史・宗教・価値観などについて学び世界に関する理解を深める。続いて、異文化コミュニケーションとして、言語能力以外の部分で重要になるコミュニケーション能力の育成のため、多国籍なビジネスシーンで起きうる事例をケーススタディとして、相手とのネゴシエーションや情報の伝え方について学ぶ。	
思考のトレーニング	○	「心とは何か」という問題にかんする哲学の概念や理論を学ぶ。過去の哲学・心理学などにおいて、心は、外的環境から独立したものとみなされてきた。本授業の前半では、まず、デカルトやヒュームといった過去の哲学者のこのような心の見方を振り返る。それに対して、最近、環境との相互作用から成るものとして心をとらえ直す見方が登場している。本授業の後半では、このような心の見方の由来となった、ベルクソンやメルロ＝ポンティといった哲学者の考えを見ていく。これによって、人間を環境の中で生きる存在者としてとらえ直す姿勢を身につける。	

		地域・ランドスケープ計画 論	○	地域・ランドスケープの計画・デザインに求められる要素や役割を理解し、デザインへと展開するための視野を養うことをねらいとする。近代以降の地域・ランドスケープ計画に関する理論と制度の変遷、現在の国土・地域計画の体系、最新の計画・デザインの現場でのとりくみ事例など、計画・デザインに関わる理念や技術と社会との関わりについて幅広く学んだ上で、身近な環境を対象としながら、地域や自然と共生する社会のあり方を構想し、デザインにつながる学びを行う。	
--	--	---------------------------	----------	--	--

社会シミュレーション	○	広範な社会現象の動的な原理を理解（ときには予測まで）するために、モデル化とシミュレーション手法について学び、利用できるようなことを目指す。人口動態、競争・協調、拡散・伝播などの現象の支配方程式が存在すると考えられている数理モデル、大域的な創発などは自明ではないが、システム環境とシステム要素が相互影響しあうシステムダイナミクスモデルや、個々のシステム要素どうしの相互影響をモデル化するマルチエージェントモデルなどを学び、時間発展的な変移をシミュレートして、様々な社会現象に関する理解を深める。	
環境・空間調査分析法	-	地図や衛星測位（GPS）などより得られる「なにが」、「いつ」、「どこで」、「どんな状態にあるか」が把握できるダイナミックな位置データ“G空間データ”を可視化する地理情報システムGISについて学び、景観生態学、ランドスケープデザインの実践的活用スキルを得る。具体的には、GISの概念、広く普及するGISツール“QGIS”の使用について学び、政府統計データ等を用いて具体的なデータを見える化する。さらに、応用例としてクラスター分析を使用するリモートセンシングデータを使った土地被覆分類などにも触れる。	
NGO組織デザイン概論	○	社会課題に取り組む国内外のNGOやボランティア等の市民社会、公的機関、民間企業などの社会的な活動について学ぶ。その学びの中でも、NGOをコアとしつつ、その活動や役割、組織としての強みや弱みなどについて、自ら情報を収集し、物事を考えていく学生が育つような講義を目指す。特に現代社会における様々なNGO・政府・民間企業といった多様なアクターについて学び、産官民の異なる役割について理解を深め、市民社会へ貢献できるようになれる人材の育成を目指す。	
グローバルリーダーシップ実践	○	リーダーシップについて、経営学におけるリーダーシップの理論や、世界を変えてきた優れたリーダーの考え方にに関して学ぶ。また、グローバル経済を牽引するテクノロジーの活用事例から世界で起きているイノベーションへの見識を深める。また、グローバルな組織の一員として組織を上手く活用していくために必要なリーダーシップスキルとして、部下のマネジメント手法としてコーチングに関して学び、手法習得を目指す。また、自分が関わる組織の中でどのようにリーダーシップを発揮していくべきかについて検討を行い、授業参加者内で共有する。	
データアナリティクス	○	実務で広く用いられているデータ分析の代表的な手法の原理と適用法を学び、実際のデータから、予測・判別・分類・次元縮小などの有益な知見を得る能力を身につけることを目指す。具体的には、線形重回帰分析、ロジスティック回帰分析、主成分分析、クラスター分析、決定木分析、人工ニューラルネットワーク・ワークなどのデータ分析手法について学ぶとともに、ノーコード・ローコードの分析ツールを用いて、分析を実行して、結果を解釈することまでを行う。	
環境・エネルギーシステム論	○	気候変動問題に対処するための脱炭素社会への移行に向けて、環境・エネルギー技術の社会導入が期待されている。これらの先進的な技術を社会に導入していく段階では、技術面・経済面・環境面からその特徴を多面的に捉えることに加え、システムに与える影響を理解する必要がある。本科目では、環境・エネルギー技術の概要や特徴、導入に向けた課題を学ぶと共に、日本のエネルギーシステム・エネルギーミックス、環境・エネルギー政策の動向について理解を深める。また、時系列解析などのデータ分析手法を用い、エネルギーの需給予測等について学習を行う。	
サステナブルファイナンス	○	資金調達や投資におけるリスクやリターン、投資の意思決定方法などファイナンスの基礎理論や分析手法を学ぶと共に、企業と金融機関・投資家が資金のやり取りを行う金融市場の役割について理解することを目指す。また近年、気候変動問題に対処するための脱炭素社会への移行の中で、企業の持続的な成長を支えるためのファイナンス、つまりサステナブルファイナンスが注目されている。本科目では、サステナブルファイナンスが始まった経緯や概要について学ぶと共に、環境・社会・ガバナンス（ESG）の問題とそれらに対するサステナブルファイナンスの役割等について理解を深める。	
映像メディアと環境応用	○	デジタル映像制作の基本から始め、映像編集や処理技術のスキルを向上させつつ、環境保護活動や地域振興への応用を学ぶ。これにより、学生は映像メディアを活用して社会貢献や環境保護に貢献し、地域コミュニティの発展に寄与する能力を養う。	
バリアフリー・ユニバーサルデザイン論	○	世の中に存在する様々なバリアについて、様々な異なる文化、年齢、性別、人種、障害などの違いにかかわらず、社会参加ができる方法を学ばせる。その中でも、物理的な公共空間のバリアや意識上のバリアについて考えさせる。加えて、当事者の立場からそのニーズを汲み取った包摂性と当事者性を持った当事者参加の考え方を教える。この中には、商品やサービスにとどまらず、場づくり、まちづくり、社会づくりなどを含め、広範な環境のアクセシビリティを含むものと捉える。このことにより、多様な性質を持つ人々の社会参画を進めることをデザインして実践できる人材を育成する。	
SDGs・GX・SX入門	○	2030年を目標年度とするSDGs、その先の2050年を目標としたカーボンニュートラル、循環型社会を実現するためのGX・SXの取り組みも本格化している。本授業では、SDGsの17の目標の現状を映像・講義を通じて把握するとともに、企業が実際にグローバルイシューを解決するためにどのようなビジネスを推進しているのかについて学習し、身近な問題を地球規模の視点で考えるための基礎能力を身につけることを目指す。なお、講義においては、SDGsに関するeラーニング教材、TED等の映像教材の活用を積極的に行うとともに、グループディスカッションの時間を積極的に設ける。	

		環境と倫理	○	環境のデザインという観点から倫理学の基礎を学ぶ。功利主義、義務論、徳倫理といった規範倫理学の理論や概念についての知識を得てもらうとともに、それらの理論や概念を用いて、動物倫理、食農倫理、世代間倫理などの応用倫理の問題について批判的に考える技能を養ってもらふ。これらを通して、私たちが何気なく生きる日常の環境の中に、さまざまな倫理的・道徳的問題を見出し、その是非を批判的に検討する態度、そして、そのような問題を環境のデザインによって解決していく対話的な姿勢を身につける。	
		ヘドニスティック・サステナビリティ実践	○	SDGsに関して、本学が作成したゲーミフィケーション教材を体験しながら、教育をどのように変革していくべきかを教員と学生が共に検討していく。昨今、サステナビリティが重要なトピックとなっている一方で、気候危機等の危機感が広がることで若者を中心に絶望感が広まってしまっている。そのため、欧州では、アクションに取り組むためのエネルギーを生み出すために、「ヘドニスティック＝快楽的」な取り組みを組み合わせることの重要性が提示されている。本科目では、このヘドニスティックを組み入れた実践型授業を行い、グループワークを通じて、企画の立案、プロトタイプの実作を通じて実践力の向上を目指す。	
		環境アート・デザイン論	-	アート（芸術作品）を介して近年注目されている対話型鑑賞や環境アートなどについて具体的に学ぶとともに、アートの活用を組み入れた地域活性化について検討する。アートの対話型鑑賞では、対話を行うことにより、想像力や思考力を育み、考えを人に伝える力や話を聞く力などのコミュニケーション力を向上する効果が注目されており、地域の芸術祭などにおいてもその効用が注目されている。また、環境アートでは、気候変動や環境保全の環境問題に関心をもち、さらには解決を試みることを視野に入れているものも少なくない。様々な事例から、アートの効果を理解して、有効に活用できることを目指す。	
		学習理論と環境応用	-	DeepLearningの基礎から始め、データ収集、データラベリング、環境問題におけるDeepLearningの実例、および天気予報のニューラルネットワーク構築に焦点を当てる。データ駆動のアプローチを使用して環境関連の問題に取り組み、DeepLearning技術を実際の問題に適用するスキルを習得する。	
		環境デザイン創成専門実験・演習A	○	環境デザイン創成学に関するプロジェクト型の実験や演習を行い、今まで学んだことの理解を深めるとともに、社会実装のために必要な事項について具体的に体験する。	
		環境デザイン創成専門実験・演習B	○	環境デザイン創成学に関するプロジェクト型の実験や演習を行い、今まで学んだことの理解を深めるとともに、社会実装のために必要な事項について具体的に体験する。	
	専門プロジェクト	イノベーション基礎	○	社会情勢や自然環境が大きく変化する現代においては、未来を展望する技術革新や構造改革が望まれており、専門知識と実践スキルのバランスを重視した実践的なイノベーション力が強く要望されている。この科目では、顧客のニーズを捉えて、イノベーションを生み出すための基礎力を養うことを目的とする。	
		専門ゼミ	○	プロジェクトデザインⅢにおけるプロジェクト企画と活動をプロジェクトプロポーザルとしてまとめ、第三者に分かるように説明できるようにするために、これまでの講義・実習・実験・演習で修得しなかった知識や技能を自主的に補充、修得できるようにする。	
		プロジェクトデザインⅢ	○	専門科目で修得した知識をより深く理解し、それらを活用できるようになることが求められる卒業研究に相当する科目である。前学期には、研究目的を明確にしてプロポーザルの内容について説明することができ、研究テーマの背景と研究活動の実施経過および成果の概要を説明することができることを目的とする。後学期には、最終的な研究成果に対するイメージと残された課題を具体的に説明することができ、研究活動成果の位置づけと目標達成度を適切に評価・説明することができる、さらに研究成果を論文にまとめ、その内容を適切な方法で口頭発表までを行うことを目的とする。	
	その他	進路セミナーⅠ	-	修学スタイルを確立し、社会に貢献できる人材となるための心構えを身につけるとともに、自主的・継続的な自学自習能力を身につけることであり、特に、将来の進路について行動指針を決定でき、自己の能力・性格特性を正しく認識し、自己啓発を継続し、自己管理能力を高め、自己実現への努力を続けることができることを目指すのが本科目の目的とする。	
		進路セミナーⅡ	-	将来の進路について行動指針を決定でき、自己の能力を正しく認識し、自己啓発を継続し、自己管理能力を高め、自己実現への努力を続けることができることを目指す。	

学校法人金沢工業大学 学部等の設置に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢工業大学				金沢工業大学				
工学部				工学部				
機械工学科	200	-	800	0	-	0	0	令和7年度4月学生募集停止
				機械工学科	120	-	480	学科の設置(届出)
				先進機械システム工学科	60	-	240	学科の設置(届出)
航空システム工学科	60	-	240	航空宇宙工学科	60	-	240	名称変更
ロボティクス学科	100	-	400		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
電気電子工学科	220	-	880		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
				電気エネルギーシステム工学科	100	-	400	学科の設置(届出)
				電子情報システム工学科	100	-	400	学科の設置(届出)
情報工学科	200	-	800		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
環境土木工学科	100	-	400	環境土木工学科	80	-	320	定員変更(△20)
				情報理工学部				学部の設置(届出)
				情報工学科	120	-	480	
				知能情報システム学科	120	-	480	
				ロボティクス学科	80	-	320	
情報フロンティア学部								
メディア情報学科	120	-	480		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
経営情報学科	60	-	240		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
心理科学学科	60	-	240		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
				メディア情報学部				学部の設置(届出)
				メディア情報学科	140	-	560	
				心理情報デザイン学科	60	-	240	
				情報デザイン学部				学部の設置(届出)
				経営情報学科	60	-	240	
				環境デザイン創成学科	40	-	160	
建築学部				建築学部				
建築学科	200	-	800		0	-	0	令和7年度4月学生募集停止
				建築デザイン学科	100	-	400	学科の設置(届出)
				建築学科	100	-	400	学科の設置(届出)
バイオ・化学部				バイオ・化学部				
応用化学学科	80	-	320	環境・応用化学学科	70	-	280	名称変更・定員変更(△10)
応用バイオ学科	80	-	320	生命・応用バイオ学科	70	-	280	名称変更・定員変更(△10)
計	1480	-	5920	計	1480	-	5920	
金沢工業大学大学院				金沢工業大学大学院				
工学研究科				工学研究科				
機械工学専攻(M)	18	-	36	機械工学専攻(M)	18	-	36	
機械工学専攻(D)	5	-	15	機械工学専攻(D)	5	-	15	
環境土木工学専攻(M)	10	-	20	環境土木工学専攻(M)	10	-	20	
環境土木工学専攻(D)	5	-	15	環境土木工学専攻(D)	5	-	15	
情報工学専攻(M)	18	-	36	情報工学専攻(M)	18	-	36	
情報工学専攻(D)	5	-	15	情報工学専攻(D)	5	-	15	
電気電子工学専攻(M)	18	-	36	電気電子工学専攻(M)	18	-	36	
電気電子工学専攻(D)	6	-	18	電気電子工学専攻(D)	6	-	18	
システム設計工学専攻(M)	8	-	16	システム設計工学専攻(M)	8	-	16	
システム設計工学専攻(D)	6	-	18	システム設計工学専攻(D)	6	-	18	
バイオ・化学専攻(M)	18	-	36	バイオ・化学専攻(M)	18	-	36	
バイオ・化学専攻(D)	6	-	18	バイオ・化学専攻(D)	6	-	18	
建築学専攻(M)	16	-	32	建築学専攻(M)	16	-	32	
建築学専攻(D)	5	-	15	建築学専攻(D)	5	-	15	
高信頼ものづくり専攻(1年制M)	4	-	4	高信頼ものづくり専攻(1年制M)	4	-	4	
高信頼ものづくり専攻(M)	3	-	6	高信頼ものづくり専攻(M)	3	-	6	
高信頼ものづくり専攻(D)	5	-	15	高信頼ものづくり専攻(D)	5	-	15	
ビジネスアーキテクト専攻(M)	6	-	12	ビジネスアーキテクト専攻(M)	6	-	12	
心理科学研究科				心理科学研究科				
臨床心理学専攻(M)	6	-	12	臨床心理学専攻(M)	6	-	12	
イノベーション研究科				イノベーション研究科				
イノベーション専攻(1年制M)	40	-	40	イノベーション専攻(1年制M)	40	-	40	
計	208	-	415	計	208	-	415	
国際高等専門学校				国際高等専門学校				
国際理工学科	35		175	国際理工学科	35		175	
計	35		175	計	35		175	